

参考資料

令和2年度使用小学校用教科用図書

# 調査資料

国語・書写・社会・地図・算数・理科・生活・音楽・

図画工作・家庭・体育（保健）・外国語・道德

第14採択地区教科用図書採択協議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
26 信 教	一般社団法人信州教育出版社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
116 日 文	日本文教出版株式会社
207 文教社	株式会社文教社
208 光 文	株式会社光文書院
224 学 研	株式会社学研教育みらい
232 廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社

【国語科 調査資料1-1】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい国語	2 東京書籍
内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上で、年度当初に「国語学習の進め方」を載せ、目標や身に付けるべき基礎的な技能を明示している。児童にとって、各学年の学習のめあてが明確になる。</li> <li>・2年生以上で、年度当初に「話す聞く」「書く」「音読（朗読）」の小単元を配置し、新担任が児童の実態を知るのに役立つ。一年間の指導方針が明確になる。</li> <li>・見開きで「国語のノートの作り方」というページが年度当初にあり、書き方まとめ方の基礎的な技能が習得できる。教師にとっても授業展開の指南となる。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す聞く」学習の低学年では、ゲーム的活動を取り入れて児童の興味を喚起している。高学年では、インタビュー等で準備段階からの2種類のメモ作りを行うことで、相手や状況に即して臨機応変に対応できるよう指導できる。</li> <li>・「話す聞く」学習では、全学年で、対話→聞く→話し合い→話す、という順に単元配置がされ、段階的・系統的に伝え合う力の育成を図ろうとしている。</li> <li>・「読み」教材の後には「書く」学習活動を行うように、読み書き関連を図った配置となっている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生では、学習したことを家庭でも行うよう誘って、主体性を育もうとしている。</li> <li>・2年生以上では、「季節の足音」を2回設け、日本の四季（春夏・秋冬）や行事や伝統文化を知り、音読等の表現活動を通して味わうことができる。</li> </ul> <p>〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じて「紹介カード」等を例示し、感想を伝え合う学習を通して、読書への興味関心を高め、本に親しませたり読書の幅を広げたりすることができる。</li> <li>・「図書館へ行こう」が、全学年にあり、年間3回も読書に関する単元がある。</li> <li>・現在活躍中の著名人の読書経験を紹介し、興味関心を喚起している。</li> </ul> <p>「読み」教材に関連した本を、「こんな本もいっしょに」として、表紙写真と案内文で紹介している。「〇年生の本棚」としてまとめ、多分野多彩な紹介もある。</p>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年生は、上下巻。5・6年生は年間1冊。</li> <li>・「〇年生で学習した言葉の力」として、前学年での学習内容（指導事項）を振り返ったり、「◎年生で学習する言葉の力」「◎年生で学習した言葉の力」として、該当学年での学習内容（指導事項）が確認できたりできるような工夫がある。</li> <li>・Dマーク箇所では、ウェブサイト上でデジタルコンテンツを閲覧・利用ができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かち書きは、2年下巻まで。</li> <li>・1年入門期は、児童の生活に直結するようなテーマ、リズムが印象的で楽しい詩を採用していること等で、児童が意欲的に教材に向かえるよう工夫している。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元を、つかむ→（中心教材）→振り返るという統一した構成にすることで、学習過程が明確になり、見通しを持って取り組むことができる。</li> <li>・情報や考えを整理する手立てとして、ノート、メモ、カード、グラフ、図表、挿絵、対話、写真等が多く例示されている。</li> </ul>	

【国語科 調査資料1-2】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">みんなと学ぶ 小学校国語</h2>	11 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校図書</span>
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉のいずみ」では語句や漢字、「言葉のきまり」では語法や文法、日本語の使い方についての教材を載せ、1年下巻から段階的に学習できるようにしている。</li> <li>・2年生以上には、「言葉をつないで文を作ろう」として、前学年配当漢字の熟語を使ってテーマに沿った短作文を作り、文や文章の中で使えるように工夫している。</li> <li>・上巻頭の「見つける・見つめる」による語彙集め（3年生以上）や、巻末の「言葉の部屋」等、年間を通して語彙を豊かにし、実生活で使えるように工夫している。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上の説明的文章教材は、上巻で論理的思考を、下巻で感性的思考を育てようとの意図が感じられる配置となっている。</li> <li>・説明的文章教材を読み取った後に書く活動を配して、説明的論理的な文章が書けるように、「読み書き関連」学習をさせようとの工夫がある。</li> <li>・「自分だけのノートを作ろう」（書く教材）が、3年と5年の上巻にあり、「自分の考え、友達の考え、まとめと振り返り」の順に、考えを深めるようになっている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上の各学年巻頭に「○学年でつきたい力」として、折り込み見開き4頁分の学習内容（指導事項）が示されているが、児童にとっては難しく分かりにくい。</li> <li>・巻末には、上と同様に「○年生を振り返って」気づいたことを表現する活動がある。</li> <li>・2年生以上に「季節のたより」を年に4回（春夏秋冬）設け、日本の四季や年中行事、季節の動植物や天候に応じた言葉を挙げて紹介している。</li> </ul> <p>〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上の全学年の7月単元に「読書に親しもう」があり、夏休みを前に進んで読書活動できるような工夫がある。12月教材には「読書を広げよう」という単元が1年生からの全学年にあり、表現活動と並行させて読書の魅力を伝えている。「読書の部屋」が、1年生からの全学年にあり、表紙絵と短文で紹介している。</li> <li>・図書館の利用について、1～3年は学校図書館、4～6年は地域の図書館に関する教材を設定し、その役割や活用方法が理解できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で、上下巻の分冊。・QRコード読取りで連動コンテンツの閲覧利用が可能。</li> <li>・1年下巻から全学年の巻末に「授業で使う言葉」として、国語の学習用語が整理され、指導事項が明確になっている。また3年上巻から「国語のカギ」として、○○する時のポイントが、話す・聞く・書く・読む、それぞれ項目別に示されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かち書きは、2年生1学期まで。1年生上巻は、文節の切れ目で改行してある。</li> <li>・1年入門期は、児童の実態に合わせて複数教材の組み合わせ指導ができるよう工夫。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や語句に関する単元・教材が、他社と比較して多い。</li> <li>・理解と表現との複合的な単元（読み書き関連等）では、初めに学習活動の概要を簡単な項目表で示す等して見通しを持って学習に臨めるように配慮してる。</li> </ul>	

【国語科 調査資料 1-3】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">ひろがる言葉 小学国語</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教育出版</div>
内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年下巻から全学年で、読み物教材の後には「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」を設け、関連語句を掲載し、語彙の増加と定着のための工夫がある。</li> <li>・ 巻末には「言葉の木」があり、学年別のカテゴリーを設け語彙拡充を図っている。</li> <li>・ 「話す聞く」の学習で多用な場面設定の話型を示したり、「説明文」の学習で情報のまとめ方の文型を示したりし、他教科でも広く活用できるような工夫がある。</li> <li>・ 各領域での学習ポイントを示した「ここが大事」が、端的で分かり易い。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話す聞く」では、日常生活でよく見られる場を設定し、イラストで分かり易く例示したり具体的な台詞を示したりし、伝え合う力が身に付くよう工夫している。</li> <li>・ 理解と表現との関連学習を図るため、「読み」教材文の後に「書き」「話す」活動を組織している。言語活動例が複数示されているので、選択して活動できる。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話す聞く」「書く」では、学習過程が①～④（または⑤）のステップで明示され、見通しをもって学習できるよう工夫されている。</li> <li>・ 「読む」では、単元のとびらを設け、目標を示して何のために学ぶかを明確にしたり、作品の印象的な一文や場面写真を提示して、読む意欲を喚起する工夫がある。</li> <li>・ 低学年では、「たのしく読もう」が設定され、言葉遊び等を通して学習を楽しむ工夫がある。高学年では、口語詩・文語詩を紹介し、多様な作品に触れられる。</li> </ul> <p>〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み物教材の単元末で、各1～3冊の関連図書を紹介している。巻末付録には、紹介文を添えて表紙写真を載せ、多用なテーマの本紹介がある。各学年約80冊。</li> <li>・ 1年上巻で学校図書館（見開き8頁分特設）、2～4年で情報検索・情報活用に関する単元を設定し、図書室や図書館の活用方法について理解できるようにしている。</li> <li>・ 1年下巻から、目次に「読書」という項目でまとめ、読書単元が一目で分かる。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年とも上下巻の分冊。</li> <li>・ 古典教材では、関連資料が絵図や写真で多彩に示され興味を喚起している。</li> <li>・ 写真の配列から考え、表現活動を行う単元がある。</li> <li>・ 「まなびリンク」の箇所では、参照資料をウェブサイトで閲覧・利用できる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かち書きは、2年上巻途中まで。</li> <li>・ 1年入門期は、文字学習に移行しやすいよう、他教科も意識した構成となっている。</li> <li>・ 物語文の挿絵は、具体的な場面を描いたものが多く、抽象度が低い。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動、中でも「書く活動」を設定している単元が多い。</li> <li>・ 説明的表現活動を重視し、文章構成（展開）指導のために、手引を用意したり準備的な「トレーニング説明文」等で段階的に学習できるようにしたり工夫。</li> <li>・ 学習過程や指導事項が明確になるような整理項目や、付録が、よく配置されている。</li> </ul>	

【国語科 調査資料 1 - 4】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1 style="font-size: 2em;">国 語</h1>	3 8 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光村図書</div>
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の扉に、同系統の前学年でどんな学習をしてきたかを短く示してあり、既習学習を意識して学習指導できる。この言語活動を単元末で振り返ることができるよう観点が示され、「たいせつ」で指導事項がまとめられている。</li> <li>・ 「漢字の広場」が、2年以上で年間5～6回設定され（2箇月に1回）、物語性のあるイラストと共に示されているので、短作文を書く学習等で楽しく復習できる。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生以上で、情報に特化した単元・教材が3回ずつ系統的に設定され、思考の型や情報を整理する方法等、他教科や日常生活で生かせるよう工夫されている。</li> <li>・ 2年生以上の「コラム」では、コミュニケーションの基礎的な考え方や具体的な方法、言語事項で扱う基礎的な符号等、1～2頁で重点的に扱っている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生から、春夏秋冬の季節の言葉の学習があり、季語や動植物、二十四節気等を通して、日本の四季や伝統文化に興味関心を抱かせる小単元が配置されている。</li> </ul> <p>〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語文や説明文を学習した後は、「この本読もう」のコーナーを設け、2～5冊程度の関連する図書を、表紙写真と簡単な内容で紹介している。</li> <li>・ 1年下巻から巻末付録に「本の世界を広げよう」として、10～40冊紹介している。</li> <li>・ 1～3年では学校図書館、4～6年では地域の図書館に関する教材を載せ、役割や特徴、活用方法等について理解できるよう工夫している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～4年生は上下巻。5・6年生は年間1冊。</li> <li>・ 巻頭には、扉の詩、「〇年生の国語の学びを見わたそう」が全ての学年にある。巻末付録には、「『たいせつ』のまとめ」「本の世界を広げよう」「言葉の宝箱」等、2年下巻から全学年で統一し、各学年の指導事項が明確になっている。</li> <li>・ 古典や古典芸能には、明るい挿絵や写真が多用され、親しみやすくする工夫がある。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かち書きは、2年下巻の途中まで。</li> <li>・ 低学年の文字がくっきりとして太く、読み易い。巻末のひらがな表も、他の教科書と比較して、止め・はね・払い等の細かい部分がよく分かる。</li> <li>・ QRコードを読み取ると、教科書連動のコンテンツを閲覧・利用できる。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生以上の学年では、単元配列も内容も統一されており、系統的に指導できる。</li> <li>・ 単元の初めに学習の進め方を示したり、学習活動を見開きで提示したりして、学習過程を明確にし、見通しをもって学習できるよう配慮されている。</li> <li>・ 単元の初めの「確かめよう」では、教科書の前学年や現学年上巻のどこで既習しているか、どのページを見直せば手がかりになるのか、直ぐに参照できる工夫がある。</li> <li>・ 「見通しをもとう」の中には、考えの形成に関する活動を設定し、「振り返ろう」で自分の考えを整理して、今後も主体的に学習できるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	新しい書写	東京書籍
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用具の準備と扱い方、書きやすい姿勢と筆記具の持ち方などが写真等で示され、繰り返し確認して定着が図れるようにしている。</li> <li>○「毛筆で書いてみよう」では、基本の点画の種類と書き方が示されている。穂先を朱墨の濃淡で示し、筆の運び方や筆圧等が理解しやすいように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を解決する上で、キャラクターの吹き出しが手助けとなっている。</li> <li>○「学びを生かそう」では、「書写のかぎ」を使って行う学年に応じた取り組みが提示されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きに一年間の学習を見通すイラストマップがあり「主体的、対話的な学び」ができるよう構成されている。</li> <li>○書写の学び方「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「話し合おう」「広げよう」を提示し、見通しをもって主体的に取り組めるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生かそう」の欄で、学習内容を確認しながら硬筆練習できるようにしている。</li> <li>○巻末にある漢字の表は、毛筆と硬筆の両方で示されている。</li> </ul> <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生活に広げよう」では、手紙、ポスター、新聞の書き方等学年に応じて分かりやすく提示されている。</li> <li>○「文字のいづみ」では、書いて味わおう、書きぞめ、文字の成り立ち等のコラムが用意され伝統と文化を大切に扱っている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に「書写のかぎ」をまとめて提示している。</li> <li>○漢字表は、当該学年の漢字と1学年下の漢字が毛筆と硬筆で表記されている。全学年にひらがな、カタカナが、3年生以上には、ローマ字表も提示されている。</li> <li>○1・2年生に水書用紙が添付されている。</li> <li>○文字の説明だけでは分かりにくい所に、効果的に挿絵や写真等が入っている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下部に「学習にあたって」、裏表紙に保護者の皆さまへの欄が設けられ、指導上の留意点が示されている。</li> <li>○最初のページにQRコードが添付されていて、用具の扱い方や文字の書き方などを動画で見られるようにしている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インデックスを付けて、学習事項と既習事項が一目で分かるようにしている。</li> <li>○ワイド版で見やすく、学習内容を定着させるための書き込み欄も豊富である。</li> <li>○左利きへの対応として、鉛筆の持ち方や用具の置き方の写真を載せたり、硬筆の書き込み欄の配置を工夫したりしている。</li> <li>○硬筆毛筆共に手本の文字が大きくて美しい。</li> </ul>	

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校書写	学校図書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢、鉛筆の持ち方、毛筆用具の扱い方が写真等で示され、繰り返し確認できる。</li> <li>○「学習のめあて」「この教科書の使い方」「全学年で学習したこと」を設け、段階を追って、主体的な学びができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャラクターの吹き出しを使って、「書き方のかぎ」（書けるようになるための見方・考え方）を説明し、児童の思考・判断を促し、表現力の育成を図っている。</li> <li>○学習の進め方の項目「考えて書こう」では、他者と考える場面が設定され、対話的な学びができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確かめる」「考える」「生かす」の学習の進め方を明示し、見通しをもって、主体的に学べるように工夫されている。</li> <li>○「感謝の気持ち」や「思い出や印象に残ったこと」を書くことで、自らを振り返る機会が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水書用筆等、「水ふでをつかってみよう」というページで取り上げ、硬筆書写の能力を高めるための関連的指導を工夫している。</li> <li>○各単元の最後に、「生かして書こう」と「振り返ろう」を設け、単元の学習内容を自分で振り返り、再確認しながら、硬筆で教科書に書き込むことで、毛筆と硬筆との関連を実感させている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ふり返ろう」では、ことわざ・クラス目標等、生活に即した様々な課題が設定されている。</li> <li>○6年生の発展ページでは、行書の特徴を紹介し、中学校の学習へと興味を持たせている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「書写の資料館」が設けられ、文字に関わる様々な資料を豊富に掲載している。</li> <li>○QRコードが付されていて、用具の扱い方や文字の書き方などを動画で見られるようにしている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の筆使いがわかりやすいように、実際に筆を動かしている連続写真が掲載されている。</li> <li>○毛筆の手本で、中心線が記号で示されているとともに、手本とは別に、点線・○印・数字・濃淡・穂先の図等を使って、字の形を説明している。手本は、半紙の原寸大で示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えてかこう」で試し書きと「書き方のかぎ」を比較しながら学習を進めて、ねらいがわかりやすくなるように工夫されている。</li> <li>○キャラクターを使い、一緒に考えたりし、大切なポイントを伝えるよう工夫されている。</li> <li>○毛筆で練習したことが、硬筆の学習に発展できるように構成されている。書き込み欄も多く用意されている。</li> </ul>	



【国語科（書写）調査資料1－3】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学書写	教育出版
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入門期での「鉛筆の持ち方」を丁寧に扱うとともに、全学年の教科書の裏表紙に「えんぴつのもち方」の写真を示す等、定着を図る工夫がされている。</li> <li>○姿勢と持ち方、用具の扱い方、あとかたづけのしかたについて、写真を使って丁寧に説明している。繰り返し確認でき、定着しやすい。</li> <li>○穂先を朱墨の濃淡で示し、筆の運び方や筆圧等が理解しやすいように工夫されている。運筆の写真も多く使われている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」で、教材文字と試し書きを比べ、自らの課題を見つけ、課題解決のため考えを深める活動ができる工夫がされている。</li> <li>○「試し書き」と「まとめ書き」で、課題解決した成果が実感できるようになっている。</li> <li>○「ここが大切」で単元の目標を達成できるように、ポイントをまとめている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程として、「めあて」「ためし書き」「考えよう」「ここが大切」「まとめ書き」「生かそう」「ふり返ろう」の7段階で学び方が丁寧に示され、見通しをもって主体的に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○自己評価欄を設け、3段階で評価できるようになっている。</li> <li>○練習用紙の作り方が提示されていて自分で進めることができる。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに毛筆の前と後に、硬筆で「試し書き」と「まとめ書き」が教科書に書き込めるようになっている。</li> <li>○1・2年生では「水書用紙の使い方」で水書について取り上げている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会のお知らせ、年賀状など生活に役立つものが教材になっている。特に年賀状、絵はがきを取り上げて取り組みやすくなっている。</li> <li>○「書いて伝え合おう」の単元では、はがき、カード、発表資料、卒業制作等学習したことを生かして自分の思いが表現できるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水書用紙や、「まなびリンク」としてQRコードがついている。</li> <li>○筆記用具の特徴では、書いた線だけでなく、筆記用具の穂先の写真が掲載され、特徴がわかりやすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年では字のマスをも4つに分け、書く場所を正しく示している。</li> <li>○毛筆では、筆圧の強さを1、2、3と表記したり、始筆の穂先の向きを10時半と表記したりする等、わかりやすい表現を用いている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手本の文字が美しい。</li> <li>○右ページに手本、左ページに学習事項と一単元が見開きで構成されているのでわかりやすい。</li> <li>○キャラクターが吹き出しやイラストで、学習のポイントを示している。</li> </ul>	

【国語科（書写）調査資料1－4】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	書 写	光村図書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1・2年生で「えんぴつのもち方」を丁寧に扱っている。また、1年生の途中や2年生の終わりに、「できているかな」のページを設け、鉛筆の持ち方を振り返らせ、定着を図っている。さらに、3・4年生の裏表紙には、鉛筆の持ち方の写真を、5・6年生の裏表紙には、鉛筆と筆の持ち方の写真を掲載し、常に意識できるよう工夫している。</li> <li>○「たいせつ」マークを付し、基本点画の書き方のポイントを示している。</li> <li>○穂先を朱墨の濃淡で示し、筆の運び方や筆圧等が理解しやすいように工夫されている。また、穂先の向きや、力の入れ具合等、視覚的に分かるように「ななめ穂先ちゃん」を付して、イメージさせている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書き方に課題のある手本を提示することによって、正しい書き方を考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○3年生では、「たしかめようシール」が添付されており、始筆、送筆、終筆部分に貼ることによって、自分の書いた文字を振り返り、学びが整理できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進め方（考えよう→たしかめよう→いかそう）が示されており、見通しをもって主体的に取り組めるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手本の左下に硬筆でなぞるところがあり、今日のめあてが確認できる。さらに、「硬筆のまとめ」のページで、学習したことを硬筆で振り返り、確かめることができるよう工夫されている。</li> <li>○1年生の巻末に、水書用紙が付されており、「水筆の持ち方」の写真も示し、水書を取り上げ、硬筆書写の能力を高めるための関連的指導を工夫している。</li> </ul> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書写ブック」を6年生の教科書に綴じ込み、1年生からの学習を振り返り、生活に生かせるようにしている。</li> <li>○資料が豊富で、各教科の学習や、日常生活での活用例等が示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材一つ一つに、QRコードが付されていて、用具の扱い方や文字の書き方などを動画で見られるようにしている。</li> <li>○「漢字図鑑」では漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説し、文字への興味関心を持たせる工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元名が、端的でわかりやすい。また、学習内容の「～しよう。」という指示が、明確である。</li> <li>○毛筆手本の中心を記号で示し、筆使いのポイントを墨の濃淡、記号、点線、吹き出し等で視覚的に表現している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材が、見開き2ページにまとめてあり、各段階の学習内容について理解しやすい。</li> <li>○手本の文字に、キャラクターを付し、その動きに擬態語を付ける等して、筆使いをイメージしやすくしている。</li> <li>○手本の文字が美しく、自然な文字である。</li> </ul>	

書名 項目	小学書写	日本文教出版
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;                      ○書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の準備と後始末などが正しく定着するように、角度を変えて大きな写真で示したりポイントを拡大したりするなどの工夫がある。                      ○電球マークを使って、大切なポイントを提示している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○単元のはじめの「考える」や、キャラクターの吹き出しによって、主体的に学習に取り組めるようにしている。                      ○書き方に課題のある手本を提示することによって、正しい書き方に気づき、確認することができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○巻頭に1・2年生では「この教科書の使い方」、3年生以上は、「書写学習の進め方」を設け、学ぶ方法を知り、主体的に学べるよう工夫されている。                      ○1・2年生では、「かんがえる」「たしかめる」「いかす」の3段階、3年生以上は、「試し書きをする」「考える」「確かめる」「生かす」「振り返る」の6段階で、学習過程を示し、主体的に学べるよう工夫されている。</p> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;                      ○毛筆の学習の後にある「いかす」の欄で、硬筆で教科書に書き込みをすることにより、学習内容を確かめられるようにしている。</p> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;                      ○各教科の学習や日常生活における書く場面と目的に応じた書き方が手紙や原稿用紙の使い方、掲示物の書き方など、具体例を挙げて示されている。</p>	
資 料	<p>○巻頭のホームページアドレスから、文字の書き方など、動画で学べるよう工夫されている。</p> <p>○1・2年生の巻末に付されている水書きシートは、1ページ分の大きさで、厚みもあり、扱いやすい。</p>	
表記・表現	<p>○表紙や裏表紙のイラストがカラフルな書画風であり、日本文化の伝統をイメージさせる楽しいものとなっている。</p> <p>○自己評価欄「できたかな」を各単元に設け、1年生～4年生は○で、5・6年生はだるまの目で評価できるようにしている。</p>	
総 括	<p>○学習の最後の「自分の力で」のコーナーでは、教材を選択し主体的に学べるようにしている。</p> <p>○「言葉の窓」で、学習の基礎となる「語彙」を扱った教材が掲載され、言葉への関心が高まるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">新しい社会</h2>	2 東 書
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ことば」のコーナーで重要なことばを示し、その全てのことばに分かりやすく説明が書かれている。さらに、「まとめる」場面で、小単元の学習に出てくる「ことば」の一覧を提示し、それらを使ってまとめることにより、学習内容の定着が図れるように工夫されている。</li> <li>○学年ごとに学習場面に応じた学び方を「まなび方コーナー」で具体的に示していて、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けられるようにしている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「社会的な見方・考え方」について、ドラえもんのイラスト付きの問いが4つの視点（位置や広がり／時間／かかわり／比べる、分類する、総合する、関連づける）で示されていて、児童が社会的事象について進んで調べ、多角的に考えられるような問いが設定されている。</li> <li>○「まとめる」では、文章でまとめる、討論する、新聞や年表でまとめるなど多様な表現活動が示されていて、思考力、判断力、表現力を育てる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年において、「学習の進め方」で「つかむ」「調べる」「まとめる」（「いかす」）のそれぞれの学習段階でどのような学習をするのかが分かりやすく説明されている。また、本時の学習は、それらのどの段階なのかが分かるようにめあてと共に毎時間示されている。</li> <li>○「〇〇さんの話」のコーナーで、仕事や社会活動に関わる人の話から、仕事や生き方について学ぶことができる内容となっている。また、「いかす」では、学習したことを生かして社会的な問題について考えたり、自分にできることを考えたりする活動が例示されている。</li> </ul> <p>〈学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入で児童に問題意識を持たせ、学習問題を見だしやすい内容を取り上げている。単元のめあて、小単元の学習課題、本時のめあてが分かりやすく示されていて、問題解決的な活動が進められる。</li> <li>○「ひろげる」「いかす」のコーナーでは、児童が興味を持ったことを主体的に調べたり考えたりできるように工夫されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで、写真、図、グラフや表などの資料が見やすく提示されている。資料は、児童の思考に合わせて選択、配列されていて、学習活動に活用しやすい。</li> <li>○図やグラフ・表などは、児童の発達段階を踏まえた内容のものが取り上げられている。「学び方コーナー」で、資料についての読み取り方も示されている。</li> <li>○見開きごとに資料番号が付けられている。また、「Dマーク（インターネットを使った学習）」が示されていて、いろいろな学習場面で生かせるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習課題や本時のめあての提示が、色や囲み枠の違いなどで本時がどの学習段階なのかが一目で分かるように工夫されている。</li> <li>○キャラクターの台詞を通して、児童が親しみをもち、身近な問題としてとらえ関心を持てるように工夫されている。</li> <li>○文字の大きさが学年の発達段階に合わせてられている。本文と他の文字の大きさ、字体も工夫されていて見やすい。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鮮明な図や写真などの豊富な資料、ドラえもんによる「社会的な見方・考え方」を働かせた問いや「ことば」や「学び方コーナー」等、児童が意欲的に学習に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○単元ごとに「つかむ」「調べる」「まとめる」（「いかす」）の学習段階を分かりやすく示し、問題解決的な学習が展開できるように工夫されている。</li> <li>○「学習の進め方」が、学年の発達段階に応じて載せられていて、学年当初に学習の進め方を確認すると共に、その学年に応じた問題解決学習の仕方を学ぶことができる。</li> <li>○5・6年生は学習内容が多いので、2冊に分かれていて使用しやすい。また、教科書の重量を考えると児童の負担も軽い。</li> </ul>	

書名 項目	<h2>小学社会</h2>	17 教 出
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時間の学習に「キーワード」を太字で示したり解説を加えたりして、確かな知識の習得が図れるようにしている。また、「キーワード」を単元のまとめで再掲して「キーワード」を生かしながらまとめられるようにし、学習内容の定着を図れるようにしている。</li> <li>○「学びのてびき」で、学習問題の立て方、情報の集め方、資料の読み取り方などの学習技能について解説し、どのようにして学べばよいかをとらえやすくしている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な社会的事象を多角的に考えたり、社会における課題を解決したりする力を養うために、学習してきたことと社会が抱える課題を関連付けて考えられるように工夫している。</li> <li>○「やってみよう」や単元のまとめにおいて、学習のねらいに即した学習活動の例を示し、自分の考えを表現する力を養えるように工夫されている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程（つかむ、調べる、まとめる、つなげる）が明確になっており、見通しを持って学習することができる。また、前学年で学習してきたことを振り返り、生かしていけるようにしている。</li> <li>○「まとめる」「ひろげる」で学習の内容をまとめ、それを「つなげる」で自分たちにできることを考え、地域社会への誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚などを育てようとしている。</li> </ul> <p>〈学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された資料から児童の「問い」を引き出しながら自分たちのこととして学習問題を作成することで、児童自らが関心・意欲を持って問題を追究・解決に取り組めるように、「学習計画を立てる場面」までの流れを重視した紙面構成になっている。</li> <li>○次時の予告「次につなげよう」を頁末に例示し、思考の流れに一貫性を持たせるようにしている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真、地図、グラフ、「まなびリンク（学習に役立つウェブサイト）」など多様な資料が用意されている。資料を大きく掲載し、より多くの気づきを引き出せるようにしている。</li> <li>○日本各地に残る代表的な伝統芸能や文化遺産を写真などの資料で紹介したり、主体的に社会参画している人々の話を掲載したりして、臨場感豊かに学ぶことができるようにしている。</li> <li>○グラフや歴史の資料などは出典を明示している。また、資料のネームにア、イ、ウ…のように記号が付けられ、どの資料に注目すればよいか簡潔に指示できるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パターン化されたレイアウトでデザインされており、視認性が高まるように配慮されている。</li> <li>○児童が親しみ、意欲が持てるように、学習課題（「この時間の問い」）や資料の読み取りに際して働かせるべき視点や考え方の示唆に、子供のイラストや吹き出しを用いている。</li> <li>○文字のフォントや大きさ、図版の色や紙面上の配置の工夫があり、児童が見やすいよう配慮されている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された資料から児童の「問い」を引き出しながら自分たちのこととして学習問題を作成することで、関心・意欲を高く持って問題を追究・解決に取り組めるように、「学習計画を立てる場面」までの流れを重視したつくりになっている。</li> <li>○頁末の「次につなげよう」によって次時を結びつけて思考の流れに一貫性を持たせたり、既習事項を振り返ったりするなど、児童に学習の継続性を意識させる構成になっている。</li> <li>○「学習のてびき」で具体的な学び方を示し、キーワードを単元のまとめで再掲するなど、いろいろなまとめ方を提示したりして、学習内容の定着を図る工夫をしている。</li> <li>○ユニバーサルデザインを意識した字体（UDデジタル教科書体）を使用し、色覚の個人差を問わず、より多くの人にとって見やすい、読みやすい配慮をしている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>小学社会</h1>	116 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大切な語句を太字で強調するとともに、「キーワード」で解説し、巻末にその索引を設け、学習内容の定着を図れるようにしている。</li> <li>○「学び方・調べ方コーナー」では、資料の読み取り方や調査方法・表現方法を示し、情報を適切に調べまとめることができるようにしている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象等の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会にみられる課題を把握したりするために、1時間ごとに問題が示されていて、その時間で何を学習するのが明示されている。また、学習問題に対する自分の考えから「さらに考えたい問題」を示すことで、考えたことや選択・判断したことを適切に表現できるように工夫されている。</li> <li>○学習問題を自分のこととして捉えさせて自分たちにできることを話し合う場面を設定し、話し合い活動が様々な場面でできるようにしている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「この教科書の使い方」で学び方を明記したり、巻頭に「社会科の学習でたいせつなこと」を示したりして、主体的に学習を進めまとめられるように工夫されている。</li> <li>○「わたしたちの学びを生かそう」において、発展学習として詳しい資料や参考事例を紹介し、よりよい社会を考え主体的に学習できるようにしている。</li> </ul> <p>〈学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたし（たち）の問題」で学習問題を見だし、「学び方・調べ方コーナー」で問題解決の見通しを持つことができるように「空間・時間・関係」の3つの観点から学習問題を追究できるように工夫されている。</li> <li>○「さらに考えたい問題」「わたしたちの学びを生かそう」で、学習問題の追究結果から更に調べたいと思う内容を取り上げ、新しい視点を持たせたり、新たな問いを見いだしたりすることができるようにしている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題に即して読み取らせたい学習内容を、児童が絵や図の中から自らの力で気付くような資料提示の工夫をしている。</li> <li>○学習に役立つ資料を「学習資料」として絵や写真入りで説明しており、児童の興味・関心、学校や地域の実態等に対応できるものとなっている。</li> <li>○見開きごとに資料番号がつけられており、「デジタルマーク」のある資料は、ウェブページで学習をさらに深めることができるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたし（たち）の問題」が「？」や「！」を付けて示され、活動内容が理解しやすくなっている。</li> <li>○「見方・考え方」で社会的な事象の理解を助ける視点と学習方法が、学習課題に即した具体的な内容で明示されている。</li> <li>○本文での重要語句が太字で示され、欄外に「キーワード」や「むずかしいことば」の解説があり、詳しく説明がされている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象の意味について考える力を育てるために、児童の思考の流れを重視し、意欲的に問題を解決していく学習展開がなされている。</li> <li>○児童の発言が吹き出しになっていたり、学習の計画がノート形式になっていたりして、児童の視点で学習が進められるような構成になっている。</li> <li>○「学び方・調べ方コーナー」では、働く人々や各時代の庶民の生活への視点が示され、児童の思考の流れから人々の営みへ目を向けさせる単元構成がされており、指導場面での活用が図られている。</li> <li>○各単元で学習問題について話し合う場面を設定し、繰り返し話し合いで問題解決を図っていく学習過程が工夫されている。</li> </ul>	

【社会科（地図）調査資料 1-1】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい地図帳	2 東 書
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○初めて地図帳を使用する児童のために、巻頭に「ちずのぼうけん」や地図の成り立ちについて大きなイラストを用いて感覚的に理解できるように工夫している。鳥瞰図から直上図、絵地図、地図と段階的に説明されており、すべての児童が理解できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図の配列も、初めに大まかな世界と日本の地図があり、その後縮尺の違う日本地図、さらに世界地図と様々な資料や統計が続き、興味を持って自ら学習したり、索引などを用いて調べやすいようにしたりしている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャラクターによる地域の特徴に気付かせるような言葉がけや質問により、児童の興味関心を高め、地図を読み取る力を育てる工夫をしている。また知識の段階に応じて地図について学習することができる。</li> </ul> <p>〈地図・資料の特徴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「日本の自然災害」「世界の国々の国旗」などの巻末の資料は、児童の興味を惹くものになっている。特に、日本や世界の歴史と地図との関わりは、社会全体の理解につながる。</li> <li>○地球を球体で表現したイラストなどにより、緯度、経度の概念が立体的に角度としてとらえられるよう工夫がなされており、理解しやすい。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の距離の計測活動を促すため、各ページの縮尺が物差し風になっている。</li> <li>○いくつかのページに、Dマークが記載され、インターネットを使って様々な角度からの学習について利用の助けになるようにしている。</li> <li>○各資料の掲載順が学年配当順になっており、調べたり学習したりしやすい。また、日本と世界を比較する資料が掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きなイラストやユニバーサルデザインに沿った文字が使われている。また、地図や地球儀を効果的に活用し、国土や社会生活への理解を深められるよう配慮がなされている。</li> <li>○地図中に世界遺産のイラストがある。また、索引や地図上の地名などの文字の大きさや色を変え、必要な文字や場所を見つけやすくしている。</li> <li>○土地の高さによる色分けと使われ方による色分けがされていて、地域の特徴や産業が分かるようになっている。</li> <li>○等高線が細かい間隔で引かれていて、山地の傾斜の変化などがよく読み取ることができる。また、土地利用と等高線の地図を分けている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書より大判のA4判サイズで、大きな地図や資料が分かりやすい。また、発色のよい写真を用いて資料の提示を行っている。</li> <li>○地図中の文字や数字のフォントなどに工夫があり、地図やイラストの色が落ち着いていることで分かりやすい。</li> <li>○表紙が丈夫で滑らかな加工により傷がつきにくい。</li> <li>○内容も素材も児童の4年間の使用に適した、学習しやすい地図帳である。</li> </ul>	

書名 項目	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝 国
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <p>○初めて地図帳を使用する児童のために、巻頭の「地図のやくそく」や「地図帳の使い方」等のページで地図の使い方が段階を追って丁寧に記載されており、すべての児童が理解できるよう工夫がなされている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○地図の配列も、初めに大まかな世界と日本の地図があり、その後縮尺の違う日本地図、さらに世界地図と様々な資料や統計が続き、児童が興味を持って自ら学習したり、索引などを用いて調べやすいようにしたりしている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○「地図マスターへの道」というレベル別の問題が地図の欄外に多く（８０程）あり、児童の意欲を引き出すとともに、知識の段階に応じて地図について学習できる。また、「まとめのぬりつぶし」により、児童の理解の定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>〈地図・資料の特徴〉</p> <p>○「世界のあいさつ」「世界の国々の国旗」等、巻頭や巻末の資料は児童の興味を惹くものになっている。</p> <p>○地球儀のユーラシア大陸の文字がアジアとヨーロッパの両方にかかるように文字が配置され、大陸の範囲が分かりやすい。</p>	
資料	<p>○児童の距離の計測活動を促すため、ページの縮尺が物差し風に表現されている。</p> <p>○多くのページに、二次元コードが記載され、様々な角度からの学習や利用の助けになるようにしている。</p> <p>○各資料の掲載順が学年配当順になっており、調べたり学習したりしやすい。関連したグラフや資料を数多く取り上げ詳しく載せている。</p>	
表記・表現	<p>○大きなイラストやユニバーサルデザインに沿った文字が使われ、文字の大きさ・書体やカラーバリエーションにも配慮がなされている。</p> <p>○索引や地図上の地名などの文字の大きさや色を変え、必要な文字や場所を見つけやすくしている。さらに、多くの地図での国別の色分けが分かりやすい。</p> <p>○地域の特色や産業が分かるように、高さによる色分けと使われ方による色分けがされている。さらに手描き風の陰影で立体感を出している。盆地がくっきりとしているなど、土地の様子が読み取りやすい。</p> <p>○等高線の間隔が適切で読み取りやすい。また、多くのページで等高線の地図と土地利用が一緒に書かれており、生活の様子もわかりやすい地図となっている。</p>	
総括	<p>○教科書より大判のA４判サイズで、大きな地図や資料が分かりやすい。また、資料の量も多く、深く長く学べるものになっている。</p> <p>○地図中の文字や数字の白抜き表現や、地図やイラストの色がはっきりしていることで分かりやすい。</p> <p>○表紙が丈夫で、特殊な加工の表面のシート張りにより傷が付きにくい。</p> <p>○内容も素材も児童の４年間の使用に適した、学習しやすい地図帳である。</p>	



【算数科 調査資料1-1】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい算数	2 東京書籍
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉                      ○問題解決過程の各段階が可視化されるとともに適切に配置されているキャラクターの吹き出しや補助発問により、問題解決が主体的に進められるように工夫されている。○数学的活動の中で働かせた数学的な見方・考え方を分かりやすくまとめたり、対話の視点を明示したりすることで、知識・技能の確実な定着を目指して構成されている。                      ○「たしかめよう」では知識・理解の確認や技能の定着を、「ほじゅうのもんだい」では、個の習熟度に応じて2段階の問題構成とすることで基礎・基本の確実な習熟をねらっている。さらに、「ふりかえりコーナー」では、既習内容を端的に整理し、個の理解度に応じて確かめたり調べたりできる構成となっている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉                      ○数学的活動を重視し、その教材に適した考えや表現をていねいに取り上げ、より一層分かりやすく可視化していくことで、思考力・判断力・表現力の育成を図られるように構成されている。                      ○「授業ページ」と「マイノート」がセットで取り上げられており、問題解決過程で働かせ顕在化してきた数学的な見方・考え方を自分のノートに自分の言葉でかき込み、それらを振り返ったり価値付けたりする場面を設け、メタ認知能力の向上を図ろうと意図されている。                      ○学習感想の例示も多くされていて、深い学びへの橋渡しの場も設けられている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉                      ○「学びのとびら」では、算数の学び方を明示し、問題解決過程の各段階における学びの視点や数学的活動の内容を振り返る場を設定している。また「マイノートをつくらう」では、具体的なノートのかき方を取り上げ、既習とのつながりや自分の気付きなど、メタ認知に関わる記述をキャラクターなどを使って表現している。                      ○「いかしてみよう」「つないでいこう算数の目」「考える力をのぼそう」「算数で読みとこう」「おもしろもんだいにチャレンジ」等では、日常事象の一場面に焦点を当てて、それらを数理的に捉えてことを通して、生きて働く知識・技能の定着と自ら学んだことを活かしていこうとする態度の育成を図っている。</p> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉                      ○「いかしてみよう」は、日常生活との関連を見出す場、「おもしろ問題にチャレンジ」は、さらに算数・数学の世界での広がりを見出す場として位置づけ、学習したことを活かしながら問題が解決できるように工夫されている。                      ○日常生活を振り返り、数量や図形に着目した経験や培ってきた感覚、興味・関心を想起させ、学びの中での対話を通して、算数の学習につなげていく数学的活動を積極的に取り組めるように工夫されている。                      ○「学びのとびら」では、「友だちと学ぼう」と対話的な学習場面を設けている。対話的な学びを通して、学ぶことの楽しさや意義を実感し、進んで生活に活かそうとする態度の育成が配慮されている。</p>	
資 料	<p>○絵や写真などは、身近な内容から取り上げられており、今日的な話題も豊富に取り入れられていて児童の興味・関心を高め問題の理解に役立つように表現や内容、提示の方法が工夫されている。                      ○1年生の4～5月算数の学びの入門期をサポートする別冊が用意されていて、確実な数学的活動をしたり学んだことをかき込めたりするなどの工夫が見られ、学習に集中して取り組める構成となっている。</p>	
表記・ 表現	<p>○新しい用語や記号、単位は太字で読み方や書き順も記されている。また、定義、公式、重要事項等は、囲みや色付けで強調されていて分かりやすい。                      ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。</p>	
総 括	<p>○幼小接続を意識した紙面づくり、小中接続を意識した振り返りの場「算数のしあげ」が設けられており、数学的な見方・考え方の育成を軸とした構成となっている。                      ○数学的に考える資質・能力を身に付け「知的に自立する」という方針の下、算数の「内容」を学ぶプロセスを通して「数学的な見方・考え方」を身に付けていく構成になっている。                      ○分かりやすくていねいな問題解決の学習展開や自分で学び直しができる構成により、主体的・対話的に学習に取り組み、学び方が身に付くよう配慮されている。</p>	

【算数科 調査資料1-2】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしい算数	4 大日本図書
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <p>○「〇年までのまとめ」では、知識・技能をいつでも振り返ることができ、また学び直しもしやすくなるように構成されている。さらに「ふりかえるマーク」では、ふり返ることが効果的なところを示し児童の主体的な学習を促している。</p> <p>○「プラスワン」では、十分な問題量が確保するとともに、適応問題が早く解けた児童に取り組ませることで、授業の円滑な進行が図れるように配慮されている。</p> <p>○「おうちで算数」では、学習したことを日常生活にも活かす問題となっている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○「じっくり深く学び合おう！」では、問題解決のプロセスを、実際の授業場面を想起したイラストで表している。友達の考えを聞く場面、話し合う場面等において、数学的な思考力・判断力・表現力の育成を目指した構成となっている。</p> <p>○「発見！考え方」では、本時のまとめの場面で、数学的な見方・考え方に焦点を当てている。そして、巻末のシートにメモをしてまとめ、活用しやすくなっている。</p> <p>○「算数まなびナビ」のなかの「算数の学び方」では、学習の流れ図示し、学習の進め方がわかりやすくなっている。また、学習過程の各場面での話し合いの視点を示すことで、主体的・対話的な学びづくりに取り組めるようになっている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○「算数まなびナビ」では、学習の進め方が明示されており、学習を発展的に広げて、日常生活や他教科につなげて活かすような態度の育成を考慮している。</p> <p>○「おうちで算数」「ふくろう先生のなるほど算数教室」「算数たまたまばこ」「読み取る力をのばそう」等では、思考力に焦点を当てた問題や情報活用力をのばす問題に取り組んでいく。</p> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉</p> <p>○1～3学年「おうちで算数」、3～6学年「ふくろう先生のなるほど算数教室」では、算数科で学んだことを日常生活で活かし、発展的な問題に取り組めるように構成されている。また、算数への興味・関心を高めたり、日常生活で算数が使われていることを実感したりできるような内容が取り上げられている。</p> <p>○問題解決の際に、特に振り返ることが重要な場面には「ふりかえるマーク」を設け、授業で振り返る時に活用ができるように構成されている。</p> <p>○「じっくり深く学び合おう」では、特によく考えて話し合いながら学習する場面を設定している。</p>	
資 料	<p>○資料は身近な内容に加え、人権、福祉、防災・安全教育など社会や自然事象が、絵と写真で取り上げられている。</p> <p>○豊富なデジタルコンテンツが用意されていて、対応するページにはマークが付けられている。また、プログラミングに触れる内容を、各学年に設けている。</p> <p>○巻頭に、問題解決的な学習の取り組み方やノートのかき方の例が示され、巻末に、算数で使う大切な考え方がまとめられるようになっている。</p> <p>○幼保小、小中の接続場面を意識して、スムーズに学習に取り組めるような構成としている。</p>	
表記・ 表現	<p>○新しい用語や記号、単位は太字で書かれわかりやすくしているとともに、読み方や書き順が記されている。定義や公式、重要事項等は、囲みや色付けで強調されている。</p> <p>○児童の発達段階に応じて、デザインやキャラクターを変えるとともに、教科書に書き込んだり、図を測定したりするところでは、作業がしやすいように場を配置している。</p>	
総 括	<p>○児童の問題解決能力の育成をねらうとともに算数科を通しての学びを豊かにすることを意図している。また、教師にとって使いやすい教科書を目指した構成となっている。</p> <p>○「発見！考え方」では、考え方に焦点を当て、知識・技能と考え方に焦点を当てたまとめになっている。そして、これらを活用するため、身に付けた見方・考え方をメモするシート「ひらめきアイテム集」が設定され、常に解答を得るだけの学習から、数学的な考え方を楽しむより質の高い学習への転換が意図されている。</p>	

【算数科 調査資料1-3】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	みんなと学ぶ	11 学校図書
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <p>○内容の系統性が強い算数の特徴を考慮し、基礎・基本の確実な定着と、既習と新しく 学ぶ内容とのつながりをはっきりと位置づけている。基礎・基本から児童の思考の流れに沿った構成になっている。</p> <p>○「?を発見」では、日常生活の一場面をマンガ形式で表し、児童が無理なく問題意識 が持て、そこから問題を発見し、それを算数の課題として取り組むことができるよう にしている。</p> <p>○巻末「今の自分を知ろう!」では、児童自身が、学んだ算数の力がどのくらい身に付 いたのか、また、身に付けた算数の力が活用していけるのかを診断するための場を設 定している。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○「①考える力」「②判断する力」「③表す力」を、算数科の学習を通じて身に付けさ せたい3つの力として、2～6学年の上巻の冒頭にまとめている。対話的な学びを重 視し、友達のいろ いろな考えを読み取る場面や共有する活動が取り入れられている。</p> <p>○汎用的な力を身に付けるため、特に重要と位置づけている9つの数学的な見方・考え 方を、モンスターをモデルとして比喩的に表し、場面に応じて例示している。これに より、楽しみ ながら数学的な見方・考え方を身に付けられるようにしている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○問題発見の場面をイラストの形式とすることで、児童が新しい学習内容に接した時、 より身 近に感じることができるよう工夫している。また、各単元の導入はでは、日 常生活など身近 なことや算数の中から問題を発見する場面を設け、児童が興味・関心 を持って学習に取り組 んでいけるようにした。</p> <p>○巻頭「3つの学び方で学習を進めよう」では、算数の学び方を明示し、主体的・対話 的に 問題解決をしていくことができるように構成されている。</p> <p>○「深めよう」「まなびをいかそう」「活動!!」「アクティブ!!」「ふりかえろうつなげよ う」等では、自 分で考え、友達とその考えを共有し、全体でまとめていくという授業 の流れを明示し、児童に 問題解決能力の育成を図っている。</p> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉</p> <p>○問題解決過程の1つ1つの場面を「解決したいな」「考えたいな」「伝えたいな」な どで表 し、主体的・対話的な学びづくりに取り組んでいる。</p> <p>○問題解決の場面で、図を効果的に活用することができるように、系統的に整理して学 習が 積み上がるように構成されている。</p>	
資 料	<p>○日常場面から導入し、写真等を使って課題提示し、児童が興味・関心を持って学習 に 取り組めるようになっている。環境、国際理解、安全・防災、防犯、伝統文化、道 徳教育な ど、幅広くより豊かな問題を取り上げている。</p> <p>○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。</p> <p>○巻頭に、学び方や算数でよく使う考え方が示されおり、横長AB判の側注を利用して、 学 習の進め方等が示されている。</p>	
表記・ 表現	<p>○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。</p> <p>○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。</p> <p>○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。</p> <p>○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。</p> <p>○色覚特性に配慮し、色についての記述が含まれる設問については、イラストや写真上 に 文字で色名を明記し、どの子にとっても理解できるようになっている。</p>	
総 括	<p>○横長AB判でつくられているため、教科書上での作業がしやすくなっている。また、 教科書 の左側に思考の流れ、右側には見方・考え方が示してある。</p> <p>○各学年の巻頭「3つの学びの力を育てよう」では、思考力・判断力・表現力等の具体 的な 力が示されている。6年間を通して身に付けたい数学的な見方・考え方が、学年 ごとに整理 され、可視化できる紙面となっている。</p>	

【算数科 調査資料1-4】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学算数	17 教育出版
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能を習得していく過程で重要となる児童のつまずきに対して「考えるヒント」「よくあるまちがいを」設け意識させることで、基礎学力の向上を図っている。</li> <li>○導入「どんな学習がはじまるのかな?」では、日常生活の様々な場面から問題を発見し、算数の問題としてモデル化し、目的意識をもって数学的活動に取り組み、算数のよさを実感するように工夫されている。</li> <li>○基礎・基本の確実な定着を図るため、日々の学習から単元のまとめや家庭学習までの学びのサイクルを「問いの連続」というコンセプトで構成している。</li> <li>○「学びのマップ」「学びの手引き」では、知識・技能を学年を超えてつなげる構成とし、学び直しを繰り返していくことで、基礎・基本の定着を図っている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題発見・解決の過程を「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しで示し、児童の「問いの連続」で学習を進められるように構成されている。学習のめあて、話し合いのポイント、ふり返りの視点などがわかりやすい。</li> <li>○問題解決の際に用いた数学的な見方・考え方を振り返り、そのよさを確かめている。そして、単元末には、学んだ算数を活用する活動を取り入れている。</li> <li>○発表や話し合いの場面を具体的かつ豊富に取り入れるとともに、練り上げを焦点化するための発問も示し、豊かな言語活動のもと、思考力・判断力・表現力の育成を図っている。</li> <li>○自分でノートにかく活動や友だちがかいたノートを読み取る活動を重視し、数学的な思考力・表現力が高められるように工夫している。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「学びの手引き」では、問題解決の楽しさを味わいながら算数学習の学び方を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○「学んだことを使おう」「算数ワールド」「算数を使って考えよう」「広がる算数」等では、学習内容を広げたり日常生活とのつながりに触れたりして、知的好奇心を高められるように工夫されている。</li> <li>○単元のまとめには、学んだことのよさや考え方を振り返る4コマ漫画を設け、単元や領域を貫く考え方をわかりやすく表現し、学習意欲が高められるように工夫している。</li> </ul> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活から算数の問題を見出し、「はてな」「なるほど」「だったら」と問いの連続を重視した授業の流れで、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○「学んだことを使おう」では、日常事象から算数を見つけて、算数と日常とをつなげて、日常生活での問題を算数を使って解決するとともに、学んだことのよさを実感しながら問題解決能力の育成を図っている。</li> <li>○巻頭「学習の進め方」では、「みんなで話し合う」の場面を設定し、「学びを深める大切な言葉」として、対話を促す視点が明記されている。「算数のミカタ」では、各領域を貫く数学的な見方・考え方に焦点を当て、数学的な考え方の定着を図っている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料は、日常生活からの内容に加え、現代的な諸課題として、環境、防災・安全、福祉、情報、伝統文化、数学史などを取り上げている。</li> <li>○巻頭「算数をはじめよう」では、学習の進め方や算数で使いたい考え方が示され、巻末「学びのマップ」「学びの手引き」では、算数用具の使い方や作図の仕方、数学的な考え方、用語等がまとめられている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みやオレンジ色で強調されている。</li> <li>○各時間の問題は番号が付けられ、課題やめあては、囲みで強調されている。まとめはオレンジ色で強調されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童自らが見出した問いを重視し、その問いを話し合いを通して解決し、更に新たな問いに向かうという「問いの連続」を意識できる構成になっている。</li> <li>○「何ができるようになるか」を実感する単元構成がされていて、「算数のミカタ」では各領域の数学的な見方を顕在化し、「算数で使いたい考え方」では、各学年で生かしたい数学的な考え方が示されている。児童が、主体的・対話的な問題解決を通して知識や技能を確実に習得できるように構成されている。</li> </ul>	

【算数科 調査資料1-5】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	わくわく算数	61 啓林館
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○算数・数学で育てたい演繹、帰納、類推の考え方が、それぞれ「もどる」「きまり」「にている」と明示されている。巻末「算数資料室」では、それらが「算数でよく使う考え方」としてまとめられていて、活用できるように工夫されている。</li> <li>○必要に応じて、道具の使い方や作図の仕方などが手順を細かく分割した連続写真を用いて提示されていて、知識・技能が身につくように配慮されている。</li> <li>○巻末「もっと練習」では、2段階のレベルで問題を設定し、習熟度別学習など児童の理解度に応じたドリルができるよう構成されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決の過程で、方略として重要な式、図、表などが示されており、自分の考え方や解決過程を説明する場面、その根拠について話し合う活動などが取り入れられ、思考力、判断力、表現力の育成が図られるように構成されている。</li> <li>○「単元とびら」では、日常生活と既習とを関連付けて、児童自らが課題意識を持ち見通しを持って学習に取り組み、主体的・対話的に学習に取り組めるように構成されている。</li> <li>○「学びのめばえ」では、新しい学習につながる考えや気づきが示されている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「学習の進め方」「わくわく算数学習」では、板書をモデルとして算数の学び方が明示されていて、算数科の学習に取り組みやすくなるように工夫されている。</li> <li>○「わくわく算数ひろば」の中の「算数ラボ」「算数の自由研究」「みらいへのつばさ」等では、日常生活に算数で学んだ知識・技能や考え方を活用し問題解決を図っていくことができるように工夫されている。</li> </ul> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのめばえ」では、日常生活や学習経験、具体的な数学的活動を通して生まれたアイデアや疑問を、算数の問題として取り上げている。</li> <li>○「わくわく算数ひろば」の中の「みらいへのつばさ」「どんな計算になるのかな」等では、算数と日常生活とのつながりを実感できるように工夫されている。</li> <li>○巻末「算数資料集」では、児童が問題解決を進める際に必要な情報と説明の仕方がまとめられており、個の学びに応じた対応がなされている。</li> <li>○巻頭「学習の進め方」では、「みんなで話しあおう」の場面が設定され、巻末「算数資料集」では、考えを分かりやすく説明するための話型が明示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料は、身近な内容に加え、健康、環境保全、食育、国際理解、防災など今日的话题を取り上げており、臨場感ある写真が効果的に使われている。</li> <li>○教科書紙面にQRコードを掲載し、スマートフォンやタブレットで参考になるコンテンツがいつでもどこでも見られる。利用には、ハード面の整備が必要となるが、授業や家庭学習に役立つ内容ともなっている。</li> <li>○巻頭「わくわく算数ひろば」では、教科書の使い方や問題解決学習の流れ、ノートのかき方の例、巻末「算数資料室」では、算数でよく使う考え方や作図の仕方等、必要に応じて確認したい大切な情報がまつまって示されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、ふりがなや書き順等がていねいに記されている。</li> <li>○文章表現は、すっきりとまとまっていて読みやすく意味がとらえやすいような表現となっている。定義や公式、重要事項等は、囲みや太文字で強調されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら問題を見付け、見通しを持って解決へと向かう学びと、他者と考えを共有しよりよい解決へと高め合う学びを重視した構成になっている。また、算数科としての学びと日常生活とのつながりを考えることを意識した構成になっている。</li> <li>○児童の主体的な学びのため、問題解決学習を中心に習得・活用・探求を重視した構成となっている。また、論理的な思考力を養えるように思考法単元が系統的に扱われている。</li> <li>○数直線が系統的に扱われており、かき方がていねいに順を追って本文や巻末に示されている。また、テープ図、線分図、数直線図、表などが適切に配置されている。</li> </ul>	

【算数科 調査資料1-6】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学算数	116 日本文教出版
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <p>○「しっかりチェック」では、基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し練習し習熟・定着が図れるように構成されている。また、「わかっているかな?」では、児童がつまづきやすい内容が含まれた単元を設けている。</p> <p>○「次の学習のために」では、単元前には既習事項を確かめ、「〇〇までに学習したこと」では、既習の学習内容を確認する場を設けている。</p> <p>○数・量・図形のそれぞれの感覚が豊かになるように、数の意味や表し方、計算の意味、量の単位と測定、図形の意味や性質などを一般化していく過程を意識した構成になっている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○児童の理解力や応用力を高めいくために、多様な解決方法を検討したり数学的な表現の相互関連について振り返ったりすることを意識した構成となっている。</p> <p>○「カギマーク」を付けたところでは、数学的な見方・考え方を働かせることを意識させている。さらに、「Hello! Math」「つなげる算数」では、学びを生かす数学的活動が重視されている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○「学び方ガイド」では、算数の学び方を解説し、授業を通して、友達と話し合ったり話し合った学習を振り返ったりすることに取り組んでいけるように構成されている。</p> <p>○「活用」「ハロー!算数」「なるほど算数」「算数アドベンチャー」「ぐつとチャレンジ」「もっとジャンプ」等では、発展的な学習内容に取り組んだり、日常生活と結び付けて考えたりすることができるように構成されている。</p> <p>〈数学的活動を充実させるための工夫〉</p> <p>○学校生活をイラストで表し算数の問題を見い出したり、問題作りをしたりする活動を通して、数量や図形に進んで関わられるように構成されている。</p> <p>○低学年では、生活科と関連させた題材を取り入れ、中・高学年では、社会科や理科や家庭科と関連のある題材を取り入れている。日常事象や他教科等との関連を図って問題解決できるように工夫されている。</p> <p>○「学び合おう」では、問題解決過程が明示されていて、お互いの考えを伝え合う場が設定されている。「算数ノートをつくらう」の「学び合い」では、他者のよい考えや解決方法をかくことが身に付けられるように構成している。</p>	
資 料	<p>○横長のAB判の側注を利用して、学習の進め方が示されている。</p> <p>○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象を絵と写真で取り上げている。</p> <p>○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。</p> <p>○巻頭でノートのかき方が示されていて、巻末に問題解決的な学習の進め方や算数で使いたい言葉・考え方がまとめられている。それらを切り取って使用することができるようになっている。</p>	
表記・ 表現	<p>○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。</p> <p>○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。</p> <p>○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。</p> <p>○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。</p> <p>○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。</p>	
総 括	<p>○「①どんな問題かな」「②考えよう」「③学び合おう」「④ふり返ろう」という学習過程を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、児童が筋道立てて算数の言葉で伝え合うように構成されている。</p> <p>○基礎的・基本的な力の確実な定着のため、繰り返し考えたり確認したりするページを設け、算数が苦手な児童も使いやすい教科書を意識した構成になっている。</p> <p>○系統性を重視し、既習の学習や次の学習を示すページ構成となっていて、問題解決過程の解決・発表・話し合い等の各活動を行う際の配慮がされている。</p>	

書名 項目	新しい 理科	2 東京書籍
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、準備物の一覧と手順が写真や図を使って示されている。また、巻末に観察・実験の際に必要な基礎技能をまとめて示し、いつでも確認できるようになっている。</li> <li>○単元末に「たしかめよう」の問題、4年以上は年間4回の「学びをつなごう」があり、学習したことの定着や既習事項とのつながりを捉えることができる。「たしかめよう」には、問題ごとに振り返るページが記載されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対話的学習を意識し、予想や考察の場面の話し合いでは、児童や教師のイラストに吹き出しが付き、具体的な話し合いの言葉がつけられ、思考力や表現力を育成するための工夫がされている。</li> <li>○5, 6年では、単元の導入「学ぶ前の私」と単元末「学んだ後の私」で、同じ問いかけを記載している。単元前後に取り組むことで、学びによる思考・判断の成長を児童自身が実感できる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入の「レッツスタート」で、自然事象に対する気付きを意識している。既習体験や写真、漫画等の資料から、気付きや疑問を見つけ、問題をつかみ、興味関心をもって主体的に学びをスタートさせるように工夫されている。</li> <li>○「学んだことを使おう」で、既習事項や他教科との関連を図り、学びを広げる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈見通しをもって観察、実験を行うための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「問題をつかもう」「予想しよう」「考察しよう」など、学習過程が細かく示され、学習の見通しをもてるようになっている。</li> <li>○キャラクターが示す「理科のミカタ」で問題解決のヒントを示し、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>〈自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験や観察、調べ学習の後に、「学びを活かして深めよう」という活動があり、既習事項をもとに、発展的な問題の解決につなげている。</li> <li>○問題解決の力を重点的に育成する場面を「レベルアップ理科の力」として取り上げている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に「理科の調べ方を身につけよう」の資料を掲載している。</li> <li>○写真・絵や巻末付録5年実物大の胎児など、大判の特徴を活かした資料が使われている。</li> <li>○巻末には、観察や学習に活用できるカード等の資料を掲載している。</li> <li>○巻末の「インターネットを使ってみよう」のQRコードからアクセスすると、動画等の資料が見られる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文は、大きく太字で記されている。</li> <li>○「問題」「観察・実験」「まとめ」は、特に大きな文字とマークで示されている。</li> <li>○本文は敬体で記され、重要な用語は太字で下線が引かれている。</li> <li>○ノート、記録カード等の記入例で、結果、まとめ、感想の区別がはっきりしている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○唯一大判（A4判）であり、写真や絵が大きく効果的に使われている。一方、大判でありながら、軽量化を図っている。</li> <li>○キャラクターが示す「理科のミカタ」や既習事項を想起させることで「理科の見方・考え方」を働かせる工夫がされている。</li> <li>○安全に配慮が必要な箇所には赤で「きけん」のマークを配置し、注意を促している。</li> <li>○問題や実験方法のページと実験結果や考察、まとめのページは同じ見開きにならないようになっている。</li> </ul>	

書名 項目	たのしい 理科	4 大日本図書
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、準備物の一覧と手順が写真や図を使って示されている。また、巻末に、実験器具の使い方をまとめて記載し、いつでも確認できるようになっている。</li> <li>○単元末の「たしかめよう」の問題、「学んだことを生かそう」で、学習したことの定着や生活への応用を考えることができる。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や考察での話し合いの場面では考える視点が示され、それを補足する写真や図が配置され工夫されている。</li> <li>○観察・実験の結果において、観察カードやノートの記述例が多く示され、児童の表現力を育成する工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「深めよう」「チャレンジ問題」では、学んだことを活用して、別の課題に取り組めるようになっている。</li> <li>○「サイエンスワールド」では、学んだことから生じる疑問に答えられるよう、「中学校で学ぶこと」などの発展的な資料を載せている。</li> </ul> <p>〈見通しをもって観察、実験を行うための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭にて「理科の学び方」「教科書の使い方」を示し、問題解決の方法を学べるようにしている。「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の学習過程ごとに色を変え、見通しをもたせる工夫を行っている。</li> <li>○キャラクターの吹き出しで問題解決のヒントを示し、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>〈自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で育成する問題解決能力にマークを付け、教師・児童が意識しながら学習できるようにしている。</li> <li>○実験の予想や仮説を設定させ、実験やその結果の検証と見直しを行い、問題から結論が一貫して学習できるようにしている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物資料が多く掲載され、博物館等の施設が最も多く紹介されている。学んだことがどのように生活の中に活かされているか実感できる工夫がされている。</li> <li>○巻末には、観察や学習に活用できる図鑑やカード、すごろく等の資料を掲載している。</li> <li>○6年「生物と地球環境」単元で、一部間伐材で使った紙を使用している。</li> <li>○巻頭の「教科書の使い方」のQRコードからアクセスすると、動画等の資料が見られる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文は、大きく太字で記され、下地に薄い緑が付いて示されている。</li> <li>○各活動にはマークを付けて、活動内容が示されている。</li> <li>○本文は敬体で記され、重要な用語は太字で示されている。</li> <li>○「観察・実験」「結果」「結論」には、下地に色が付いて示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「理科の学び方」「教科書の使い方」で、話し合いの仕方や学習の流れを意識させるように工夫されている。</li> <li>○新単元「音の性質（3年）」について、空気中と真空の音の伝わりについて発展資料として触れている。</li> <li>○安全に配慮が必要な箇所には赤で「注意」のマークを配置し、注意を促している。</li> <li>○問題や実験方法のページと実験結果や考察、まとめのページは同じ見開きにならないようになっている。</li> </ul>	



書名 項目	みんなと学ぶ 小学校理科	11 学校図書
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、初めに準備物のチェック欄があり、手順が写真や図を使って示されている。また、巻末に、実験器具の使い方をまとめて記載し、いつでも確認できるようになっている。</li> <li>○単元末の「まとめてみよう」の問題で、学習したことの定着を図ると共に、さらに活用的な観察・実験や活用問題を設定し、より深い学びとなるように配慮されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や考察での話し合い場面では、様々な考えをフローチャートやモデル図で整理し、多面的な視点で考えたり表現したりする力を育む工夫がなされている。</li> <li>○考察が問いかけや説明させる形にしてあり、思考力や表現力の育成に配慮している。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんの資料が記載され、その中でも自然愛護につながるものや理科の偉人たちが登場するものが多く、自然を愛する心情や主体的に問題解決する態度を養う工夫がなされている。</li> <li>○単元末の「できるようになった」で、学びに向かう力・人間性等について振り返りを促す工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈見通しをもって観察、実験を行うための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭や単元導入で学習の流れを示し、問題解決の道筋がわかるように工夫されている。</li> <li>○キャラクターの科学者の台詞が、予想・計画を考える際のヒントや実験のポイントになるように工夫されている。</li> </ul> <p>〈自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で身に付けたい資質・能力のうち、単元ごとに身に付けたい資質・能力を3つに絞り、「調べていこう!!」で示している。さらに、単元途中でも該当部分にマークを示し、単元末の振り返りでも関係付けて取り組めるように配慮されている。</li> <li>○同一の実験を複数回、または複数の実験方法で検証する例が示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙には著名な科学者を取り上げ、裏表紙には科学者の言葉、23cmのスケールを掲載している。</li> <li>○巻末の理科の学び方に関する資料が豊富で、ページ端には索引があり、いつでも確認できるよう工夫されている。</li> <li>○読み物資料が豊富で、関心意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○QRコードにより、器具の使い方の動画を見ることができる。QRコードが使えない場合の配慮もなされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文は青の下地に、白い文字で記されている。</li> <li>○各活動にはマークを付けて、活動内容が記されている。</li> <li>○本文は敬体で記されている。重要な用語は太字で示され、さらに、別枠でも取り上げられている。</li> <li>○ページの下には、活動場面が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「みんなと学ぶ小学校理科」の題が示すように、科学者のキャラクターがリードして学習を進めていく構成がユニーク。</li> <li>○巻頭の「○年生で学ぶこと」「科学の芽を育てよう」で、「理科の見方・考え方」を示している。さらに、その学年の学習を通してどのような「資質・能力」を育てたいかも明示している。</li> <li>○ページの左に矢印バーで問題解決の流れが明示されている。</li> <li>○安全に配慮が必要な箇所には赤で「注意」のマークを配置し、注意を促している。</li> </ul>	

書名 項目	未来をひらく 小学理科	17 教育出版
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、初めに準備物のチェック欄があり、手順が写真や図を使って示され、大切な言葉は視覚的にも習得しやすい工夫がされている。また、手順が縦一列の矢印で繋がって表示されているため、流れが把握しやすい。单元ごとに器具の使い方を記載し、すぐに確認できるようになっている。</li> <li>○单元末に「たしかめ」の問題があり、学習したことの定着を図ることができる。問題ごとに振り返るページが記載されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対話的学習を意識し、予想や考察の場面の話し合いでは、児童が対話をしながら主体的に問題を見だし、解決していく流れが記載されている。</li> <li>○巻頭にて「その学年で大切にしたい言葉」が示されている。さらに、その言葉を意識した会話の例が示され、思考力や表現力を育成するための工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物理单元では、導入の活動がゲーム形式になっていて、児童が意欲関心をもって主体的に取り組める工夫がなされている。</li> <li>○専門家や最先端科学などの特設ページを設けたり、本文中に資料を記載したりして意欲を引き出す工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈見通しをもって観察、実験を行うための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の手順がステップで記述され、見通しをもちやすい。器具の使用方法なども丁寧に書かれている。</li> <li>○「学習のじゅんぴ」で、次学年に向けた学習の準備について記載されている。</li> </ul> <p>〈自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や話し合いの結果の発表など、情報交換する場を設け、児童が互いに比較・検討しながら考えを深める構成となっている。</li> <li>○同一の実験を複数回、または複数の実験方法で検証する例が示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物資料が豊富で、「チャレンジ」「広げよう」「算数とのつながり」など、発展的な取組や内容を多く掲載している。</li> <li>○巻末には、観察や学習に活用できる図鑑の資料を豊富に掲載している。</li> <li>○4年星座早見盤や6年人体の実物大折り込み資料が掲載されている。</li> <li>○巻頭の「マークの説明」のQRコードからアクセスすると、関連HPが見られる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文はキャラクターとコメント、太字で記され赤色の枠で囲んである。</li> <li>○活動場面にはマークを付けて、活動のねらいが示されている。</li> <li>○本文は敬体で記され、重要な用語は太字で下地に色が付いている。</li> <li>○「観察・実験」「結果」「結論」には、下地に色が付いて示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」「学習の進め方」で、話し合いの仕方や学習の流れを意識させるように工夫されている。</li> <li>○学習に関連する専門家からのメッセージや最先端科学技術の紹介など、学んだことと社会とをつなげる工夫がされている。</li> <li>○安全に配慮が必要な箇所には赤で「注意」「きけん」の2種類のマークを使い注意を促すとともに、裏表紙にも「理科の安全の手引き」を載せ、事故防止に配慮している。</li> <li>○問題や実験方法のページと実験結果や考察、まとめのページは同じ見開きにならないようになっている。</li> </ul>	

書名 項目	わくわく 理科	61 新興出版社啓林館
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、初めに準備物のチェック欄があり、手順が写真や図を使って示されている。観察・実験のやり方を記載したページの見開きに、そこで使う器具の使い方が記載されている。さらに、巻末にもまとめて示し、いつでも確認できるようになっている。</li> <li>○単元末には、学習の振り返りを目的とした「まとめノート」があり、学習内容を簡潔にまとめる技能を習得する工夫がされている。また、「新しく学習した言葉」「たしかめよう」では、知識・技能の習得の確認、定着を図れるようになっている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や考察の話合い場面で対話的学習を意識した児童や教師の発言が充実している。また、「ふり返ろうまとめノート」では、図や絵、表やグラフなどを使ってまとめ、表現力を育成するよう工夫がされている。</li> <li>○5, 6年生では、単元の導入「はじめに考えてみよう」と単元末「もう一度考えてみよう」で、同じ問いかけを記載している。単元前後に取り組むことで、学びによる思考・判断の成長を児童自身が実感できる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入では、児童が自然の事物・現象に触れて関心を高め、主体的に問題を見いだす工夫がされている。</li> <li>○学習過程の最後では、「もっと知りたい」で、学んだことを活用して別の課題に取り組めるような問いかけがなされている。また、単元末の「つなげよう」で、学習したことを生活につなげる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈見通しをもって観察、実験を行うための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「自然の不思議をとき明かそう」で問題解決的な学習の流れの構成を示し、単元の学習過程では矢印とフラッグで問題解決の流れを示すことで、見通しをもって学習できるよう配慮されている。</li> <li>○4年「アブラナを育ててみよう」で、次学年に向けた学習の準備について記載されている。</li> </ul> <p>〈自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「これまでの学習をつなげよう」では、別単元の既習内容をつなげることで、より深い学びができるようになっている。</li> <li>○「結果から考えよう」で、結果を整理し丁寧に考察しながら科学的に問題解決を図っている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末には、観察や学習に活用できる図鑑やカードの資料を掲載している。</li> <li>○巻末の「フムロウ博士の資料室」は、理科の学び方、算数との関連等の資料が豊富で、ページ端には索引があり、いつでも確認できるよう工夫されている。</li> <li>○6年巻末資料にプログラミング学習用のシートとシールがあり、プログラミング教材がなくてもプログラミング的思考の実践が体験できる。</li> <li>○随所にQRコードがあり、授業の流れの中で、多くのコンテンツがすぐに使えるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題文は、マークと太字で示されている。</li> <li>○「問題」と「まとめ」の表記のみ、目立つように色を変えてある。</li> <li>○本文は敬体で記され、重要な用語は太字で示されている。</li> <li>○各活動場面では、矢印で学習の流れが示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の単元の配置や授業の流れについて、児童に季節と関係づけながら学習の流れを意識させるように工夫されている。</li> <li>○プログラム学習を含め、デジタルコンテンツが豊富。</li> <li>○安全に配慮が必要な箇所には赤で「注意」「けが」「やけど」「強い光」といった多種類のマークで示し、注意を促している。</li> <li>○問題や実験方法のページと実験結果や考察、まとめのページは同じ見開きにならないようになっている。</li> </ul>	

【生活科 調査資料 1 - 1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1>新しい生活</h1>	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体験活動における安全やマナーに関する習慣や技能、そして、道具の使い方や情報機器の活用技能の習得が図れるように、「やくそく」(上 45 右端)、「べんりてちょう」(上 115、下 107) などが配置されている。</li> <li>○飼育活動やおもちゃ作りへの配慮として「○○ずかん」(上 50、62、80、下 40、56) を設けている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自ら考え、判断したり表現したりしている様子を、挿絵や吹き出し、そして、作品例などで示されている。(上 76 ~ 79)</li> <li>○多様な表現活動や交流活動が例示されているので、児童が気付いたことを多様な方法で表現できるように工夫されている。(下 19、87、89)</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特に単元の初めのページに意欲や自信をもって対象と関わる児童の姿が写真やイラスト等で配置されている。(上 40、41)</li> <li>○「できるようになったことをふりかえろう」(上 53、89、下 94) というページを設け、学習内容を振り返り、これからの生活を豊かにしようとする態度を養う工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の扉で、単元につながる動機付けを「○○かな。」(上 22、36) と児童の問い掛けの言葉で示すことで、見る、聞く、触れるなど対象に直接働きかける活動へと児童を促すことができるように工夫されている。</li> <li>○表現方法として観察カード、折りたたみ絵本、ICT (上 60、74) の活用など多様な方法が提示されている。(下 19、89、126、127) ページの右下には、沢山の観察カードの例が表示され、それを基に表現し、考えることができるように工夫されている。(下 73、75、77)</li> <li>○「学びをふかめる」(下 15、53、77) コーナーでは、児童が思いや願いを実現していく過程で、友達と対話しながら試行錯誤する様子、伝え合いを通して新たな気付きが生まれる様子など、深い学びにつながる具体的な姿が示されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上巻末には切り離しても使える「ポケットずかん」が設けられており、実物大の動植物のイラストが掲載されている。</li> <li>○上下とも巻末には、生活科で学習する習慣や技能をまとめた「べんりてちょう」が設けられ、活動に応じて活用できるように工夫されている。(上 115、下 107)</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元名や各コーナーが定位置にあり、単元を通した学習の流れが見易いく工夫されている。また、全体的に穏やかなトーンで描かれており安心して見ることができる。</li> <li>○児童の思いや願いが吹き出しに記載されているので、自身と置き換えて課題を捉えられるように工夫されている。(上 32、33)</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな活動イメージ写真と活動意欲を高める挿絵が有効に配置され、挿絵の吹き出しは、習得を図りたい力に沿うような言葉で示されている。</li> <li>○「どきどきわくわく1年生」(上 1 ~) でスタートカリキュラムを扱い、入学当初の学習を円滑に行えるように工夫されている。</li> </ul>	

【生活科 調査資料1-2】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしい せいかつ	大日本図書
内容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の身を守るための習慣や技能を育てるための安全教育が充実している。校外に出かける場面では、その都度安全についての意識を高める配慮がされている。(上29)</li> <li>○「がくしゅうどうぐばこ」には、自分の身をまもるために適切な行動ができるよう防災についての記述が多く、地震や大雨の際の行動について示してある。(上109)</li> <li>○電車やバスに乗るときの手順やマナーについて、実際に子どもが活動している写真を使い、行動の順序がわかるように説明している。(下128)</li> <li>○具体的な活動の中で、適切な挨拶や言葉遣いを考えたり、公園での友だちとの遊び方などに目が向くよう配慮されている。(上9,上28)</li> <li>○公共の場で、他者の存在に気付いたりルールを守ったりできるような配慮がされている。(上29)</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「せいかつことば」では、花が咲く様子を表す言葉や雨の降り方を表す言葉を紹介し、子どもの語彙力の向上、言語能力の育成を図っている。(上33,下41)</li> <li>○表現作品例のカードは発達段階に即した表現がなされている。</li> <li>○見開きを通して、活動場面で子どもから出てくるであろう言葉や話形をイラストで示し、子ども自身の言葉を引き出すようにしている。(上32~33, 64~65)</li> <li>○子どもたちの思考を促すヒントになるような投げかけが、キャラクターの言葉で適宜れている。(上33)</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入ページは、躍動感のある子どもの活動場面の写真を使って見開きで構成され、子どもたちの自分もやってみたいという意欲を掻き立てている。(下72~73)</li> <li>○「がくしゅうどうぐばこ」には、「草花あそび」「みどりを楽しむくらし」等、遊び図鑑や理科図鑑として活用できる内容が盛り込まれており、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、諸感覚を働かせて対象と関わりようとする態度を促す工夫がされている。(下108~109, 124~125, 126~127)</li> <li>○学んだことを生かして生活を豊かにしようとする子どもたちの会話がイラストで描かれ、子どもたちに学びを実生活に生かそうという意欲を持たせることができる。(上95, 下71)</li> </ul> <p>〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵や言葉だけでなく、動作化や劇化など、子どもの実態に合わせて表現方法を選択できるよう多様な表現活動の場면을例示している。(上11,上53)</li> <li>○学習の中にペア学習やグループ学習等の交流場面を適切に位置づけ、伝え合いによる気付きの共有化を図っている。(上14,下26)</li> <li>○教室環境の工夫例や教師の支援の例をイラストで示し、子どもの試行錯誤や繰り返し活動を促すとともに、子どもが学んだことを基に考えられるよう交流や伝え合いの表現活動の様子が示されている。(下59, 下66,下77~78)</li> <li>○振り返りの機会として、気付きの交流によって自分の考えを広げ、深めていけるよう板書例が示され、子どもたちが自身の学びの変容を自覚できる。(上94)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階に合わせた児童の学習カード(発見カード、インタビューカード)、計画の立て方や達成感を味わわせる自己評価、絵地図、ビンゴカード、など多様な表現方法を紹介している。(上99,下15, 40)</li> <li>○紙コップで植物の声を聞くなど、子どもの発達段階を踏まえ、対象に直接働きかけることができるようにしている。(上22~23)</li> <li>○季節の変化を子どもたちが体全体で感じられる大単元構成で、見つける、遊ぶ、伝える、試すなどのつながりのある活動が展開され、興味関心を高め、意欲を喚起している。(上30~31, 上44~45,上74~75, 下2~3)</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の中で必要に応じて参考にできる「がくしゅうどうぐばこ」を上下巻末に掲載している。特に関連が深い部分にはリンクマーク(上81)があり、子どもたちが進んでそれを活用することで課題を解決することができるようになっている。</li> <li>○様々な活動に関連する用語の紹介や日本文化、海外の文化の紹介がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きごとに活動内容を端的でわかりやすい言葉で示しているため、子どもが課題意識を持って活動を行うことができる。さらに、教師も毎次のポイントが即座にわかる。</li> <li>○親しみやすいキャラクターが「～してみよう。」と呼びかけたり、活動のヒントをつぶやいたりして子どもの思考や活動を促している。</li> <li>○子どもの活動場面を描いた優しい色使いのイラストやリアルな写真が多い。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の発達段階に沿った学習内容や活動例が、写真やイラストを使い、わかりやすい流れで提案されている。発表場面や学習カード例に他教科(国語、算数等)との横断的なつながりを児童に意識させるマークがあり、合科的・関連的な指導ができる。</li> </ul>	

【生活科 調査資料1-3】第14採択地区専門員による研究結果報告

書名	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ上下		学校図書
項目			
内容	<p>(知識及び技能が習得できるようにするための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を通して、公共におけるマナーなど、安全な行動や規則正しい生活ができるように注意マークやイラスト、子どもの言葉を各単元の要所で設定している。</li> <li>○「学び方図かん」には、「あんぜんのページ」が設けられ、登下校時の危険や約束、防災（地震、大雨、雷等）に関する知識や緊急時の避難行動等、児童の発達段階に合わせて必要な知識や習慣が身に付けられるようになっている。（上122,124）</li> <li>○公共のマナーについて「やくそく」としてイラストで注意を喚起し、子ども自身が公共の場での行動の仕方について考えられるようにしている。（上55, 下17, 27）</li> <li>○上巻の『がっこうだいすき』では、登校時から下校時まで、児童の活動を時間の流れに沿ってイラストで示し、入学して多くの不安を抱える1年生がスムーズに小学校生活における習慣が身に付けられるようになっている。さらに、巻末には『もうすぐ2年生』として、基本的な生活習慣が身に付いているかを児童が確認できるようにしている。（上巻頭, 上108~109）</li> </ul> <p>(思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○上巻の「がっこうたんけん」では、絵中心のカード、初夏から冬にかけては、言葉での記録が徐々に多くなっているカードを提示し、発達段階に合わせて子どもたちが無理なく表現力を身に付けていけるよう配慮されている。（上9,61, 74）</li> <li>○植物の栽培や生き物の飼育・観察の単元では、自分の気持ちや伝えたい思いをマークやタイトルで示し、その思いに沿って文章や絵をかけたカード例が提示され、子どもが観察の視点や絵や文章のかき方を理解しやすい。（上24~25, 下40~41）</li> <li>○科学的な見方や文章力が身に付くようなカード例が提示されている。（上34~35）</li> </ul> <p>(学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全単元を通して、4人の個性豊かなキャラクターがつぶやいたり対話をしたりしながら意欲的に活動する様子を取り上げられ、子どもたちの「自分もやってみよう」と意欲を喚起している。（上18, 下11）</li> <li>○単元全体を通して様々な活動で自信をつけた子どもたちが、次の活動へさらなる意欲を持つことができるような写真や振り返り作文等が提示されている。（上14~15, 37, 104, 下24~25, 100~101）</li> </ul> <p>(具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが「もっと～したい。」という自分の願いをもち、予想したり友達の意見を聞いたりして工夫しながら活動していけるように多様な活動の場面が提示されている。（上26~27, 下80~81）</li> <li>○活動や体験の内容ごとにテーマをもった大単元として構成してあり、具体的な活動を通して「何を、どのように学習する」がわかりやすい。</li> <li>○子どもたちが身近な人々や社会、自然と直接関わる場面が数多く設定されている。また、各大単元が長期に渡って継続的に活動する設定となっているため、人や社会、自然などの対象と繰り返し関わることで気付きの深まりが期待できる。（下36~55）</li> <li>○活動で得られた子どもの気付きや思いを伝える方法（作文、劇、発表会）が、絵や写真で示され、子どもが多様な表現方法を知り、様々な表現方法の中から伝えたいことに合う方法を選択することができる。（上90~91, 下22~23, 下52~53）</li> <li>○「見る・考える・はっぴょうする」等、子どもたちが考えたり表現したりする際に手助けとなる「学習のわざ」が掲載されている。（上下巻末）</li> <li>○人やものと直接関わる活動や体験を多く取り入れ、子どもが工夫や改善を繰り返す中で、自ら考え、気付きの質を高められる構成になっている。（下70~87）</li> <li>○子どもたちが気付いたことを基に、進んで比べてたりたえたりする活動へと発展していくように写真を提示している。（上23,115）</li> <li>○子どもの身近な遊び場である公園で、自然や公共物を使った遊びをしたり、校外に出て、地域のお店や人々と関わったりする活動を多く取り入れている。（上38~45, 下2~35, 38~39）</li> </ul>		
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文中に、「ものしりノート」として、記録やもの作りなどの活動の補助となるページが設けられている。（上46,66, 78, 下42, 62,76）</li> <li>○子どもが問題解決のヒントにしたり、方法を学んだりすることができる「まなびかたずかん」は、児童の発達段階に合わせて項目が構成され、扱いやすい。（上下巻末）</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○臨場感あふれる写真で、子どもの意欲を引き出す配慮がされている。また、魅力的な挿絵で、活動内容や活動の流れがわかりやすく表現されている。</li> <li>○本文はすべて見開きで構成され、本文の見出しやカード発見・観察等のカードの位置を揃えることで子どもにわかりやすい。</li> </ul>		
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動や体験の場が空間認識の発達を踏まえ、子どもの成長に合わせて徐々に広がっていくように配慮されている。活動内容や教材についても発達段階に応じて広がりや深まりのあるものに変化するように工夫され、2年間を見通した学習活動が展開できるよう配慮されている。</li> </ul>		

【生活科 調査資料1-4】第14採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名</p>	<h1>せいかつ</h1>	<p>17</p> <p>教育出版</p>
<p>項目</p>	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活のリズムを整える、病気予防、安全への意識を高める、道具や用具の準備・片付け・整理整頓、遊びのルールを守る、施設や公共の場所のルールやマナーを守る、時間を守る、適切な挨拶や言葉遣いができる、訪問や連絡、依頼の仕方を知るなどの生活上必要な習慣について【コラム】や「やくそく」に適切に位置付けられている。 (上17, 19, 49, 下67, 89)</li> <li>○必要な道具を使って遊ぶ、ものを作る、手や体、道具を使って掃除をする、動物や植物の世話ができる、電話や手紙などの手段を使って連絡する等、生活上必要な技能を身に付けられるよう適切に位置付けられている。(上23, 61, 103, 下65)</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学びの軌跡を残す「書き込み欄」が設けられており、子どもが活動を通して感じたことを自分らしい表現で記入し、書いたことを基に振り返ることができる。(上21)</li> <li>○対象と関わるための準備や、関わった後に分かったことや考えたことを表現するための多様な方法(観察カードやたんけんカード、新聞、招待状、ポスター等)や記入の仕方が分かりやすく提示されているため、子どもが参考にしやすい。(上下15, 38~39)</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動への意欲や自信をはかるバロメーター「まんぞくハシゴ」が各単元で繰り返し設定され、進んで生活したり学んだりしたいという意欲や「できる」という自信を育む構成になっている。(上21, 69, 下35, 55)</li> <li>○子どもの探究心を刺激する投げかけや、答えのありかを探したくなるしかけが多く、子どもの知的好奇心をくすぐると共に、意欲の向上が期待できる。(上76~77)</li> </ul> <p>〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動や体験を通して気付いたことや考えたことを、言葉、絵、動作化、劇などで伝え合ったり振り返ったりする活動が繰り返し例示されている。(上26, 下18, 54)</li> <li>○各単元に、コラム「ヒント」が設けられており、分析的に考えたり創造的に考えたりする学習活動を繰り返し行える構成になっている。(上33, 39, 下29, 51)</li> <li>○考えたことを目に見える形で分類したりまとめたりする学習活動が掲載されている。(上62~63, 87, 下106~107)</li> </ul>	
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのポケット」は、各教科で身に付けた力が内容ごとに整理されており、子どもが必要に応じて、進んで活用できるようになっている。(上下巻末)</li> <li>○図解や動植物などのイラストが正確でわかりやすいタッチで表現され、適宜、資料図として活用できる。(上58~59, 下20~21, 98~100)</li> </ul>	
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動のめあてを示す言葉や子どもの思考を促すへの投げかけは、簡潔でわかりやすい表現になっている。(上下全ページ)</li> <li>○学習活動を例示したイラストや写真は、子どもの意欲が向上するような躍動感のあるものになっている。(上16~17, 下28)</li> <li>○四季折々の地域の行事への参加を促す写真や多様性を大切にしたイラストや写真が掲載されている。(上18~19,)</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な人々、社会及び自然と繰り返し関わる体験活動が十分に設定されており、それぞれの特徴やよさに気付くことができる内容構成になっている。</li> <li>○上巻から下巻へと、発達段階に応じた活動範囲の広がりや思考の高まりが期待できる。</li> </ul>	
<p>総括</p>	<p>○身近な人々、社会及び自然と繰り返し関わる体験活動が十分に設定されており、それぞれの特徴やよさに気付くことができる内容構成になっている。</p> <p>○上巻から下巻へと、発達段階に応じた活動範囲の広がりや思考の高まりが期待できる。</p>	

書名 項目	<h1>せいかつ</h1>	38 光村
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「どうすれば」のコーナーで、着目させたいポイントやルールを分かりやすく示すように工夫されている。「？」マークやイラストの吹き出しなどで、自ら進んで知識や技能が習得できるように工夫されている。(上20)</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力などを育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動内容に合った多様な表現方法が示され、巻末資料にも掲載されている。(下92)</li> <li>○児童が体験活動と表現活動、試行錯誤する活動を繰り返しながら学習する活動が示され、気付きの質が高まるように工夫されている。(上11)</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元が「ホップ(導入)」、「ステップ(展開)」、「ジャンプ(振り返り)」の3段階で構成されており、目的意識をもって学び、日常生活の中で学びを生かすことができるような工夫がされている。(上15)</li> </ul> <p>〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○記録カードや観察カードでは、気付きの例やねらいが具体的に示されている。(下69)</li> <li>○児童の活動の様子を写真で掲載し、活動への意欲付けを図っている。吹き出しの言葉で児童を次の活動へ促すように構成されている。(下11)</li> <li>○種、野菜、球根を実物大の写真で示し、対象に直接働きかけ、意欲を高められるよう工夫されている。(下20)</li> <li>○表現方法として、ポスター、新聞、パンフレットなどの方法が掲示されている。巻末の「ひろがるせいかつじてん」には、気付きのポイントや観点の視点、表現方法が紹介されており、意欲的に表現し、考えることができるように工夫されている。(下98)</li> <li>○試行錯誤する活動や体験と表現を繰り返しながら気付きの質を高められるように工夫されている。また、単元ごとにシールに書いた活動の振り返りで交流する時間が設けられ、より深い学びへとつながるように工夫されている。(下105)</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上下巻末の「ひろがるせいかつじてん」では、防災・安全や生活上必要な習慣の資料、体験活動や表現活動の例が紹介されている。(上138 上140 上142))</li> <li>○「きせつのおくりもの」のページでは、四季の風景や、動植物の様子などが絵や写真で紹介されている。(上112)</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元が「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3つに分かれており、活動のねらいや流れが明確に示されている。</li> <li>○「どうすれば」のコーナーで、児童の考えが広がるような工夫がされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元が、「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3段階で構成され、学習の流れやねらいが示されている。</li> <li>○スタートカリキュラムやカリキュラムマネジメントの例が示されており、中学年への接続例が多用に示されている。</li> </ul>	



【生活科 調査資料1-7】 第14採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名 項目</p>	<p>せいかつ</p>	<p>61 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「できるかなできたかな？」で活動の振り返りを行うことで技能の定着が実感でき、「がくしゅうずかん」では、基本的な学習活動が分かりやすく示すように工夫されている。(上33・上119)</li> <li>○「こんなときどうしよう」では、あいさつやマナー、安全上の注意などの基本的な生活習慣や知識及び技能が学べるように工夫されている。(上39)</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力などを育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の気付きの質を高めるための教師の支援として、言葉かけや板書の活用の例が具体的に示されている。(上7・下30)</li> <li>○単元末「ぐんぐん」での、言葉・絵・動作・劇化・ICTの活用などの多様な表現活動は、発達段階や合科的・関連的指導、3年生への接続等に配慮しながら、組織的・系統的に設定され、思考を深め、豊かな表現力が身に付くように配慮されている。(上64・下36・下37)</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のよさに気付いたり、自己肯定感が高まったりするように、児童が互いのよいところに共感し合ったり、教師の言葉や保護者からの手紙などで称賛したりして、認められるように配慮されている。(上113・下107)</li> <li>○単元末の「ぐんぐん」では、学習を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感することで次への活動への持続的な意欲が育まれるように工夫されている。(下53)</li> </ul> <p>〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○QRコンテンツで動画、スライド、音声などを視聴することができ、活動への意欲付けを図れるように工夫されている。「わくわくボックス」で児童の心を揺さぶり、対象に直接働きかけることができるように工夫されている。(上97・下88)</li> <li>○表現方法として歌や付箋、ICTの活動などの方法が提示されている。気付いたことを他教科と関連させたり、付箋で表現したりすることで、次年度以降でも活用し、考えることができるように工夫されている。(上65・92)</li> <li>○各単元の最後の「ひろがるきもち」コーナーでは、学習したことを基に生活全般に広げていけるようなヒントが掲載されており、生活に生かしていけるように工夫されている。(下25)</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上下巻末に「がくしゅうずかん」が設けられ、調べ方・記録のしかた・話し合いの工夫・まとめ方などが一連で示されたり、道具の使い方・安全上の注意などが示されたりしている。(下109)</li> <li>○幼児教育や中学年以降とのつながりに配慮し、上巻巻頭に「すたあと、ぶっく」、下巻巻末に「3年生へのステップブック」が設けられている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小単元名は、学習活動を具体的に示し、活動への意欲が高まるようになっている。(上62)</li> <li>○児童に親しみやすいキャラクターが活動や気付きを広げたり、学習を深めるためのヒントや着眼点が台詞で示されたりしている。(上65)</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科の学びのプロセスを考慮し、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階構成で単元の流れが示され、探究的な学びが身につくように構成されている。</li> <li>○上巻の巻頭には、「すたあと、ぶっく」、下巻巻末に「3年生へのステップブック」が掲載され、学びの入り口と出口が分かりやすい構成になるように工夫されている。(小寸ページ)</li> </ul>	

書名 項目	<h1>わたしと せいかつ</h1>	116 日 文
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <p>○「ちえとわざのたからばこ」では、生活科で学習する技能が紹介されている。「てあらい」「アレルギー」「ちゅうい」などのマークで、活動中に注意すべきことが分かるように工夫されている。(上69・125)</p> <p>〈思考力、判断力、表現力などを育成するための工夫〉</p> <p>○数種類の学習カードが例示され、「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」など考えるための技法の活用を促し、気付きのヒントが繰り返し提示されている。(下85)</p> <p>○様々な学習活動の例が、挿絵や写真、教師の支援や児童の気付き等の吹き出し、作品例などで示されている。(下34)</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○活動の実践例を提示することで、対象に対して意欲や自信をもって学び、繰り返し関わってきたりしたことを振り返ることができるような構成になっており、生活を豊かにしようとする態度を養う工夫がされている。(上84)</p> <p>〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉</p> <p>○発表やまとめの活動はイラストで表現し、対象に直接働きかける活動は児童目線の写真で掲載することで児童の意欲を喚起し、見る、聞く、触れる、作るなどの活動へつなげることができるように工夫されている。(下12)</p> <p>○表現方法として、ポスターや動作化、ICTの活動などの方法が提示されている。体験したことや気付いたことを表現するページでは、様々な表現例が見やすく提示されており、児童が意欲的に表現し、考えることができるように配慮されている。(下106)</p> <p>○単元の最初と最後に交流する機会を設け、自分の思いを確かにし、友達の意見に刺激を受けることで、学習によって変容した自分に気付いたり、対象とするものとの関わりを深めたりし、気付きの質を高める工夫がされている。(下72)</p>	
資 料	<p>○上下巻末に、「ちえとわざのたからばこ」が設けられ、生活や学習で参考となるスキルや安全、生活習慣などについて紹介されている。(下113)</p> <p>○各単元に「ポケット図かん」のページがあり、児童が主体的に活動できるように工夫されている。(下90)</p>	
表記・ 表現	<p>○単元が分かりやすいように、シンボルマークと色で見やすく表されている。また、下巻野裏表紙には、点字が掲載されている。</p> <p>○キャラクターやマークにより活動を示したり、注意を促したりしている。</p>	
総 括	<p>○上下巻末に、必要な知識及び技能、習慣が学習できる図鑑・資料として「ちえとわざのたからばこ」が掲載されている。</p> <p>○ページの左下に学習のめあてが示され、見通しをもって学習することができるように工夫されている。</p>	

【音楽科 調査資料1-1】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学校音楽 音楽のおくりもの	17 教出
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に適切な教材が選択され、発達段階に応じて系統的に配置されている。</li> <li>○学習を振り返るマークが施されるなど、少しずつ繰り返し練習することによって、歌唱や楽器の技能が身に付けられるような教材が配置されている。</li> <li>○継続的・発展的に学習できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現活動と鑑賞活動を効果的に組み合わせることでより学習が深まるよう配慮されている。(身体性を取り入れた学習活動により、音楽を聴き取る力の育成や主体的な鑑賞学習に配慮されている。)</li> <li>○「音楽を形作っている要素」をもとに、児童一人一人が音楽的な見方や考え方を働かせながら創意工夫していけるような学習活動が示されている。</li> <li>○「学び合う音楽」「音のスケッチ」では、主体的な学びを引き出すための手立てを具体例が効果的に示されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「まなびリンク」のマークが示され、学習に対応した動画等の資料がWEB上に豊富に用意されており、児童の興味・関心に即して主体的に学べるように配慮されている。</li> <li>○「まなびナビ」、「音楽のもと」(メモ欄あり)が示され、児童が見通しをもって主体的に学んだり、学習を深めたりできるよう配慮されている。</li> <li>○心を通わせながら学習活動やアンサンブル活動をすすめられるような設定や示唆が工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の人々の暮らしとの関わりへの示唆などが掲載され、地域社会の大切さを感じ取り、主体的に関わる気持ちを育成するよう配慮されている。</li> <li>○各学年、民謡、和楽器、わらべうたなどが十分に扱われており、伝統と文化の尊重や郷土を愛する心を育むよう配慮されている。また、諸外国に伝わる子どもの歌や民謡、音楽などが豊富に掲載され、他国を尊重する態度を育むよう配慮されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌詞を味わうことのできる写真やイラスト、著作者を尊重する態度を育むような配慮がされている。</li> <li>○児童への助言、解説が適切になされており、写真や透明シート、学習に関連したWEB上の資料を効果的に用いたりして、主体的な学びを引き出すようにしている。</li> <li>○巻末資料にリコーダーの運指表や音楽の要素がまとめられており、随所に確かめることができる。</li> <li>○全学年に&lt;Short Time Learning&gt;のコーナーがあり、教科横断的な扱いができるような配慮がされている。</li> <li>○ユニバーサルデザインをもとに配色(大事な言葉はピンクや緑など色)やフォント、ページの構成に配慮がなされ、すっきりとして見やすい。また、軽量化も図られている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽譜の大きさや文字の大きさは適度に大きく、鮮明で読みやすくなっている。</li> <li>○学習指導要領外の内容についても「はってん」として明記され、児童の主体的な学びにつながっている。</li> <li>○教材ごとに「音楽のもと」を示し、児童がその働きを意識しながら学ぶことができるよう配慮されている。また、中学年以降は自ら見つけた要素を書きこむ「メモ欄」が配置され学習を深められるようになっている。</li> <li>○もくじはまとまりごとに示されており、解説もありわかりやすい。</li> <li>○各学年の学習内容や教材曲のイメージを表紙に表現したり、壮大な写真を掲載し、楽曲のイメージを膨らませたりするような工夫がされている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱共通教材は「にっぽんのうた みんなのうた」コーナーに配置され、写真の扱いや資料も充実し、世代を超えた音楽文化の共有に配慮されている。</li> <li>○WEBリンクを含め情報量が多く、児童が楽しんで活動することができるように工夫されている。</li> <li>○選択可能なオプションの部分(音楽ランド)によって、無理なく学習が進められるように配慮されている。</li> <li>○特別支援教育の視点に立ったレイアウトや表現方法の工夫がされている。</li> </ul>	

【音楽科 調査資料1-2】 第14採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>小学校の音楽</p>	<p>27</p> <p>教芸</p>
<p>内容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年、無理のない適切な教材が選択され、発達段階に応じて系統的に配当されている。○学習したことを題材ごと振り返って確認したり、関連付けたりするページを設けている。(緑の枠に楽典用語の記載、ページの下に音楽を形づくっている要素の記載等)</li> <li>○曲想と音楽の構造との関わりについての気づきや理解を促す内容の吹き出しが適切に配置され、児童にとって学習目標や学習活動との結び付きが分かりやすいものになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自身の思いや意図を実現するために役立つ写真(楽器の奏法等)やコラムが、発達段階や学習の系統性を踏まえながら、適切に示されている。</li> <li>○「気付く・分かる」や「できる」、「思いや意図をもつ」などの学びのサポート、話し合いの具体例、音を出すときや友達と合わせるときなどの音のイメージを、イラストやキャラクターの吹き出しでヒントを出したり考えるきっかけを示したりしている。</li> <li>○譜例(絵譜)や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実が図られるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びの地図」を目次に設け、一年間の学習について見通しをもたせたり、1年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童が主体的に学習に臨んだりできるよう工夫されている。</li> <li>○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促すコラムや特集が配置されている。</li> <li>○曲紹介や動画などのコンテンツを閲覧できるQRコードが示され、教科書に対応させ活用できるよう工夫されている。</li> <li>○ねらいがわかりやすく、写真や図などでイメージをもたせる工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手遊び歌などのわらべうた、地域に伝わる伝統芸能など児童の生活に即した教材が学年段階に応じて、幅広く用意されている。演奏家からのワンポイントアドバイスがある。</li> <li>○身近な社会やスポーツなどの話題から、音や音楽が果たす役割について考えるコラムを掲載し、学習と生活と社会がつながるよう工夫されている。</li> </ul>	
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○系統的に6年間の学びがつながるように、同じ単位には同じ色で掲載している。</li> <li>○写真は撮影場所が明記されているため、児童にとっても親しみやすい。</li> <li>○「君が代」は全学年最終ページに掲載されており、写真やコラムが工夫されている。</li> <li>○巻末には、鑑賞資料やリコーダーの運指表、楽典事項、ふり返りのページがまとめて設けられており、児童が興味・関心を持ちながら主体的に学習を進めていくことができるように配慮されている。</li> <li>○特別支援教育の視点に立った配慮や道徳教育や人権教育に対する配慮もなされている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽譜の大きさや文字の大きさは適度に大きく、鮮明で読みやすくなっている。</li> <li>○題材ごとに通し番号が振られ、目次の色と題材のまとまりの色が合っていて、指導しやすくなっている。</li> <li>○「共通事項」に示された音楽を形づくっている要素が各ページ下部に示されており、さらに、児童が理解しやすい言葉で学習のねらいが記されたりしている。</li> <li>○児童の音程感覚を養うために、挿絵の「ドレミ風船」が示されており、音の高低の違いを手の動きによって感じ取る活動ができるように工夫されている。</li> <li>○表紙のイラストが6年間つなげると地図のようになり、各学年の音楽で学ぶ大切なテーマを描いている。</li> </ul>	
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通教材は「こころのうた」と銘打ち、児童が知的好奇心や感受性を働かせながら歌うことができるように配慮されている。</li> <li>○裏表紙には、各地に伝わる郷土芸能を受け継いでいる子供たちを紹介することによって、音楽をより身近に感じ、受け継いでいくことの大切さを伝えている。</li> <li>○最終ページに国歌「君が代」が見開きで掲載してあり、低・中・高学年によって異なるねらいが記されており、身近に感じられるような写真によって親しみをもちやすくしてある。</li> <li>○音楽づくりでプログラミング的思考を働かせるような教材を設けてある。</li> <li>○「防災・復興」や「スポーツ」などの視点から、音楽で生活や社会がつながり、考える力を育てようとしている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>図画工作</b></p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                  ○巻末や各題材ページで、形や色などの造形要素、表現技法や材料・用具の知識や使い方が丁寧<span style="font-size: small;">に示されている。「題材A」で身につけた技能を、「題材B」で生かし、高められるような題材配置の工夫がされている。</span></p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                  ○考えたり、決めたり、選んだり、伝え合ったりするなど、創造的に発想・構想の力が働いている場面を掲載する工夫がされている。また、想像力を働かせ、高める題材を計画的に取り入れている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                  ○つくったもので遊んだり、体全体を使って表現を楽しんだり、興味や関心を高める題材の工夫をしている。また、友達との多様な活動や異学年、地域の方などとの作品を通じた交流場面が例示されている。</p> <p>&lt;表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫&gt;                  ○[共通事項]に示された内容を明確にするために、鑑賞の授業を中心に、焦点化して示す工夫がされている。                  ○表現と鑑賞の一体化を図りながら言語活動を促すために、鑑賞の題材を工夫したり、他者と関わり合いながら活動している児童の様子を、写真と吹き出しで示したりなど工夫がされている。</p> <p>&lt;用具の安全な取扱いについて指導するための工夫&gt;                  ○『造形の引き出し』で、特に手順が複雑な技法や用具について、詳しく、わかりやすく説明がされている。また用具の使い方以外にも、各題材ページにおいて、配慮すべき内容が囲みを設けて具体的に示されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○作品製作の過程や発想方法のヒント、材料選択の可能性などを、写真と言葉を掲載することで、児童の自主的な活動を促すように工夫されている。                  ○『学びのしりょう』では、「題名の付け方」「作品の見方」「展示の工夫」「話し合いの仕方」等、児童だけでなく教師も指導全般で参考とできる資料が掲載されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○題材で育てたい資質・能力を、三つの『学習のめあて』として児童への提案という形で示し、さらに重点的に育てたい力は下線と色で強調されている。また、育てたい資質・能力に対応したキャラクターにより、学習を深めるアドバイスが示されている。さらにめあてに対応した振り返りが示され、児童が自己評価をする際の手助けとなるように工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各題材ごとに育てたい資質・能力を重点化し(下線で示し)、その能力の育成に応じた題材や表示の工夫がされている。                  ○教科書紙面に掲載されたQRコードを通して、題材製作の手順やポイント、用具の使い方等が、インターネットを通じて動画で理解できるような工夫がされている。                  ○『みんなのギャラリー』では、各地に伝わる伝統工芸や地域の造形を取り上げ、図画工作科で培われる力が地域や身近な社会に関わることが示されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>図画工作</h1>	<p>116 日 文</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;          ○巻末や各題材ページで、造形活動に必要な材料や用具の基本的な扱い方が丁寧に示されている。またこれまで紹介されていない新しい用具を紹介したり、自分の感覚や行為を通して造形的な視点について理解したりできるよう、題材が工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;          ○創造的に発想や構想することができるように、題材の配列や情景写真・参考作品の掲載などの工夫がされている。また、日常生活の中から発想する題材が効果的に示されており、想像に偏ることなく、バランスよく思考・判断・表現ができるように工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;          ○今までにない新しい視点から題材開発がされており、楽しく主体的に活動できるような題材が掲載されている。また、つくったものを通して、家族や高齢者などと交流する場面が例示されている。</p> <p>&lt;表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫&gt;          ○〔共通事項〕の内容を明確にするために、全ての題材でキャラクターを用いて、造形的な見方・考え方に関わるヒントとなる言葉が明記されている。          ○表現と鑑賞の一体化を図りながら言語活動を促すために、児童が伝え合う様子を写真と吹き出しで示したり、自分でつくったカードを鑑賞に利用したりなどの工夫がされている。</p> <p>&lt;用具の安全な取扱いについて指導するための工夫&gt;          ○『使ってみよう 材料と用具』を設け、図を効果的に使ったり、ポイントを明確にしたりなど工夫して説明している。題材ページ内の『気をつけよう』においても、囲みを設けて配慮すべき内容が、具体的に示されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○実際の授業で撮影した情景写真を掲載し、授業の流れや学びのプロセスを児童がつかむことができるように工夫されている。          ○全国の児童がつくった作品例を掲載し、一部分を拡大したり、吹き出しで考えを記載したりして作者の工夫が読み取れるように示されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○題材ごとに三つの『学習のめあて』を具象的に示し、児童の活動のめあてとするとともに、教師が題材の指導目標や評価の観点としてとらえることができる工夫がされている。またキャラクターが発想のヒントを伝えたり、児童に学びを促したりする工夫がされており、教師の指導上の言葉がけ等の参考になる。さらに学びを振り返り、次の学びへ生かそうとする児童のつばやきが示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○すべての題材において、育てたい資質・能力をバランスよく設定し、年間を通じて各資質や能力を育成していく題材の設定になっている。          ○材料や用具、場の工夫等において、教師が無理なく、普段の授業として実施できるよう、学習効果と準備等のバランスを考えた題材の工夫がされている。          ○保護者や地域とのつながりを表す様子を写真で紹介し、学校と児童の日々の生活をつなぐことができるような工夫がされている。          ○『図画工作のつながり ひろがり』では、学んだことを生活や社会に生かし、つなげる事例を紹介し、楽しく豊かな生活を創造する心を育てる工夫がされている。</p>	

書名 項目	<h1>新しい家庭科</h1>	2 東 書
内容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○「家庭科の窓」や「リード文」を掲載し、生活の営みに係る見方・考え方の四つの視点に目を向け、学ぶ意義を考えることで、概念的な理解を図り、知識・技能の定着につながる工夫がされている。                      ○題材の中や巻末資料の「いつも確かめよう」では、日常生活に必要な基礎的な知識・技能をイラストや実寸大写真で取り上げ、確実な習得に向けて、児童が自ら確かめられるよう工夫されている。                      ○「ふり返ろう」「できたかな」「成長の記録」の欄を設け、実習のポイントを自己評価し、こまめに学習を振り返り、学習内容の定着が図れたか確認できるように工夫されている。                      ○学習指導要領の改訂によって新設・変更された事項及び基礎基本について分かりやすく明示しているため、習得させたい事項が明確に記載されている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○すべての大題材を三つのステップで問題解決的な学習の展開を図ることにより、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう工夫され、新設された「生活の課題と実践」につなげることができる。                      ○題材の中に、学びを深めるために必要な「話し合おう」「やってみよう」「深めよう」などの活動が随所に設けられ、自分の考えをもち話し合い活動を深めることができるよう工夫されている。                      ○見方・考え方を働かせながら学習を進められるよう、児童に投げかける言葉がキャラクターの吹き出しの中に設定されている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○学習の流れとしての「ステップ」1～3と、学びを深めるために必要な活動が掲載され、見通しをもって自ら学べるとともに学び合いの充実が図れるよう工夫されている。                      ○「ステップ3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」及び「深めよう」では、学習内容を生活に結び付ける具体例を示し、学んだことを生活に生かすことができるよう工夫されている。                      ○題材の導入では、大きな写真やイラストを掲載し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、問題を見だし、見通しを持って学習することができるような工夫がされている。                      ○「生活を変えるチャンス！」では、学んだことを生かし、家庭や地域での実践例から、問題を見だして課題を設定することができるような工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;                      ○新設された「生活の課題と実践」について、「生活を変えるチャンス！」を設け、初めて取り組む児童や教師にとって分かりやすい具体例が多く、児童の言葉で評価・改善まで例示され、実践的・体験的な活動の充実を図っている。                      ○豊富な実践例や活動例を具体的に示すことにより、実践に生かせるように工夫している。                 </p>	
資料	<p>                     ○「Dマーク」があるところでは、インターネットを活用した学習ができるようになっており、基礎技能などの動画を視聴できるなど、課題を解決するための手掛かりとなる資料等が示されている。                      ○「プロに聞く!」「日本の伝統」「日々の備え」「環境」「安全」など、発展的な内容や今日的な課題の資料をマークで分類し、見やすく示している。                      ○小学校英語との関連を図る英単語をページ数横にイラスト入りで掲載している。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○安全への注意・喚起を促す「安全マーク」等、様々な学びとの関連を示すマークが使われている。                      ○全ての大題材のタイトルの横に家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設置し、どの視点を重視するかが分かるように工夫されている。                      ○言葉の注釈には「言葉」と示して解説しており、他の題材や教科・学年の学習内容との関連する点には「関連」や「リンク」を付して、学習に見通しをもたせるように工夫されている。                      ○学習内容別のマーク・テーマカラーを設定し、系統性が可視化できるつめ見出しがついている。                 </p>	
総括	<p>                     ○明確な目的をもって学習に取り組めるよう問題解決的な学習をすべての大題材において三つのステップで展開し、新設された「生活の課題と実践」へもつなげることができる。                      ○実践的・体験的な活動を通して、改訂により新設・変更された事項及び基礎・基本を確実に習得し生活をよりよくしようと工夫する資質や能力を育成するための工夫がされている。                 </p>	

書名 項目	<h1>わたしたちの家庭科</h1>	9 開隆堂
内容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○「なぜ毎日食事をするのだろうか」など、題材の初めに児童に問いかけることを通し、概念的な理解を図り、知識・技能の定着につながる工夫がされている。                      ○日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付けるために、易しいものから順に実習を積み重ね、発展していくよう工夫がされている。                      ○実習の手順は写真とイラストを用いて段階ごとに示し、実際の活動をイメージしやすいよう配慮されている。                      ○各実習に「できたかな」の欄を設け、知識及び技能についての学習成果を確かめることができるよう配慮されている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○学習過程において、三つのステップを基本とし、見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを促す工夫がされている。                      ○「話し合おう」「調べよう」等の場面が題材の中に設定され、意見交換をしながら解決方法を比べることで、思考力、判断力、表現力等の育成につながるよう工夫がされている。                      ○キャラクターの吹出しの内容が4つの視点について具体的に自分の考えをもたせやすくしている。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の三つのステップで題材が掲載され、見通しをもって自ら学べるように工夫がされている。                      ○フォトランゲージを使って題材の導入を図ることで、児童たちが興味関心を持ち、様々なことに気づいたり課題を見つけたりしながら、学習の展開を図る工夫がされている。                      ○「レッツトライ生活の課題と実践」や「チャレンジコーナー」では、学んだことを生かして課題を設定し、家庭や地域での実践を促す工夫がされている。                 </p> <p>                     &lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;                      ○新設された「生活の課題と実践」について、「レッツトライ 生活の課題と実践」を設け、まとめて事例を多く掲載し、実践的・体験的な活動の充実を図っている。                      ○「チャレンジコーナー」や「やってみよう」を設け、家庭科で学んだことを生かして、基礎・基本から創意工夫へと広がるよう実践例を示すことで、実践・体験できるように配慮されている。                 </p>	
資料	<p>                     ○「QRコード」の画像を見ながら学習できるページが設けられ、調理の様子や実験動画、学習を振り返るクイズ等、課題を解決するための手掛かりとなる効果的な資料が豊富に示されている。                      ○「安全」「環境」「消費」「防災」「伝統」「学習内容に関係する人」等、今日的な課題への取組の資料や学習を深めるのに参考となる内容が見やすく示されている。                      ○外国語との関連を図った資料や外国籍の児童に対応した資料が充実している。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○安全についての注意・喚起を促す「安全マーク」等、取り組む視点等を明確に示すマークが使われ、特設ページも設定し、具体的行動について確認できるように工夫されている。                      ○言葉の注釈には「一口メモ」と示して解説しており、他の題材や教科・学年の学習内容との関連する点には「関連マーク」や参照ページを付して、学習に見通しをもたせるように工夫されている。                      ○学習指導要領に基づく内容ごとに色分けしたつめ見出しが付けられている。                      ○本文と重要語句の書体の違いがはっきりしていて見やすい。                 </p>	
総括	<p>                     ○生活を自分のこととして捉え、身に付けた知識・技能を自らの生活に生かしていくために、「見つける・気づく」などの三つのステップで題材が構成されている。                      ○基礎的・基本的な学習を積み重ねていくことで、着実に知識・技能を身に付け、生活に生きる確かな力を育めるよう工夫されている。                 </p>	



【体育科（保健）調査資料1－1】 第14採択地区専門員による研究結果報告

項目	書名 新しいほけん（3・4年） 新しい保健（5・6年）	東京書籍
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進め方が明確に表示されており（ステップ1～ステップ4）児童が毎單元ごとの流れを把握し、理解がしやすくなっている。</li> <li>○学習の課題が單元前半のページの上部に明記され、児童が学習内容を把握できる構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各ページに児童の発言をイメージした吹き出しがあり、児童が課題を自分に置き換えて身近に感じられる工夫をしている。</li> <li>○「Dマーク」により、いつでも動画が視聴可能であり、視覚的にとらえやすく児童の理解を助ける内容である。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の最初に「メモ」により児童の気づきを記入することで、單元への意欲化への工夫が見られる。</li> <li>○「深める・伝える」においては、自分の考えを記入し、それを相手により良く伝える活動や他に人の意見を聞いて記入するなどを行える工夫がある。</li> </ul> <p>&lt;健康安全についての理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「まとめる」後の「資料」のページが充実しており、児童が健康安全についての理解を深め、更なる意欲化が図れる構成になっている。</li> <li>○「まめちしき」では、発展した内容を短い文章でわかりやすく記されており、更に児童の知識を高められる工夫がある。</li> <li>○「Dマーク」により、動画が視聴可能であり、視覚的にとらえやすく児童の理解を助ける内容である。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の中に他教科・他領域につながる内容が明記され、継続して健康の保持増進の意欲化が図れている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○單元毎に色が決まっており把握のしやすい工夫がされている。</li> <li>○イラストと写真のバランスがよく、効果的に使われているので、児童にわかりやすい。</li> <li>○図表、挿し絵に加え、「読み物」など、児童が興味を引く資料になっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「きづく・みつける」では児童の具体的な意見を載せており、共感できる内容になっている。</li> <li>○学習を助けるキャラクターが効果的に吹き出しでコメントをしているので、内容の補足がわかりやすい。</li> <li>○すべての単元の紙面構成が統一されており、進め方が理解しやすい工夫がされている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習の進め方」の明記やページ構成がどの單元も同一であるなど教師も児童も学習に対して見通しが持てる構成になっている。</li> <li>○「資料」「まめちしき」などの補足資料が充実しており、学習を深めることのできる内容になっている。</li> <li>○「深める・伝える」場面では他の人に意見を記入する場面もあり、話し合い活動を導入しやすい構成になっている。</li> <li>○「Dマーク」による動画視聴が、視覚化に有効であり、また、教材研究においても有効な工夫である。</li> </ul>	

【体育科（保健）調査資料1－2】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしいほけん3・4年      たのしい保健5・6年	大日本図書
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の内容をきちんとおさえたうえで、小単元を見開き1ページにまとめてある。情報量が多すぎないので目移りしにくく、内容に集中できる。</li> <li>○「ミニちしき」ではすぐに使える知識が、「ウェブ」マークではホームページ上にデジタルコンテンツが用意されており、知識をより広げられるようになっている。</li> <li>○5年で扱う不安や悩みへの対処方法について、技能面の情報量が少ない。もう少し具体例があってもよい。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話し合ってみよう」を通して課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現できるようになっている。</li> <li>○考えて書いたり発表したりする場面に記入スペースが設けてあり、自分の考えを言葉で表現できるようになっている。教科書に直接書き込めるようになっているのも良い。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう人、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部分の「やってみよう」や「調べてみよう」を通して、ある場面を想定してみたり、これまでの経験を振り返ったりしながら、興味をもって単元に入れるようになっている。</li> <li>○他の教科や他の学年とのつながりがマークで示してあり、保健体育と他教科を関連づけて学べるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;健康・安全についての理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「活用して深めよう」での活動を通して、より考えを深められるようになっている。</li> <li>○大単元毎に補足とまとめのページがあり、学習を振り返ることで、さらに理解を深められるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「はってん」や「もっと知りたい」において、発展的な内容を扱うことで、児童が生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力を育成するための工夫がされている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の分量は適量だが、イラストが多く写真やグラフなどが少ないので現実味がなく、イメージしにくい部分もある。</li> <li>○5・6年では、発達段階に合わせて表やグラフの数を増やしている。</li> </ul>	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた配色で目に優しく、取り組みやすい。</li> <li>○おさえない言葉や内容が太字になっているとよい。</li> <li>○4年の大単元の表記が現行の学習指導要領のままで、新学習指導要領に則っていない。</li> <li>○小単元が見開き1ページに簡潔にまとめられている。その反面、教科書を開いてしまうと、導入部分で自分の生活などを振り返る場合、情報が目に入ってしまい影響を受けてしまう。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた配色と使われている様々なマークによって学習内容や流れがわかりやすくなっている。文章量や資料が適量で無駄がなく、指導すべき内容もしっかりおさえられている。児童にとって学びやすく、教員側にとっても指導しやすい構成となっている。資料についてはもう少し写真の資料があっても良い。</li> </ul>	

【体育科（保健）調査資料1－3】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	わたしたちの保健（3・4年） わたしたちの保健（5・6年）	文教社
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元全体の構成が「振り返ってみよう」「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」「新しい自分に」となっており、学習の流れが明確なため、基礎的・基本的な知識が習得しやすくなっている。</li> <li>○主人公の男の子や女の子が吹き出しの形で助言し大切なポイントを押さえている。これに加え、教師がより専門的な知識を補っている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で記入欄が設けられており、得た知識を活用しながらまとめられる。</li> <li>○単元の最後に「宣言」をさせる欄が設けられているため、より意識する工夫がされている。また、発表する場面もあり、声を出して表現する機会も設けられている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かい合う力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入時に単元を見通せる工夫がされている。</li> <li>○教師等の助言や資料の補足だけでなく、「発展」など様々な場面で深い知識を得ることができ、児童の興味関心に応じて主体的に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;健康安全について理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元に応じて場面にあった、イラストや写真、グラフ等を活用されている。また、その場面に対する記入欄が設けられているため、理解を深められるようになっている。</li> <li>○単元の最後に「宣言」をさせる欄が設けられているため、実践するに当たって得た知識の理解を深める工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な資料だけでなく、イラストを活用しながら対応の仕方等掲載されているため、イメージができ、実践しやすい工夫がされている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんのイラストや写真、グラフ等があり、一度に理解できるかが難しい。</li> <li>○「心の健康」では、実際にペアやグループで体を動かす事例が記されており、気分転換をするイメージがわきやすくなっている。</li> <li>○不安や悩みを記入する欄が多く、何をどのように書いたらよいか難しい。</li> <li>○QRコードを認証すると関係サイトにつながり、資料動画が流れる</li> <li>○市民ランナーはもう少し誰もが知っている方だとより指導がしやすい。</li> </ul>	
表 記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習場面に即した助言が登場する男の子や女の子、教師がでてくるため、流れが明確となっている。</li> <li>○「振り返り」→「話し合ってみよう」→「調べてみよう・考えてみよう」→「宣言しよう」と一連の流れになっているため、どの児童においても見通しが立てやすくなっている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料や助言が多く記されているため、様々な知識と理解を育むことができる構成になっている。</li> <li>○記入欄が多く設けられているが、まとめに繋がりにくいため、活かすところまで進めることが難しい。</li> <li>○学習のまとめについては、カラーでわかりやすくまとめられている。その中でも重要な言葉については、太字になっているため、理解しやすくなっている。</li> <li>○イラストが柔らかく描かれているが探しにくく、イメージがしにくい単元もある。</li> </ul>	

【体育科（保健）調査資料1－4】 第14採択地区専門員による研究結果報告

項目	書名 小学 ほけん 3・4年 小学 保健 5・6年	光文書院
内容	<p>&lt;知識及び技能が取得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大切な言葉や文は太字で表記されていて、また、箇条書きの部分もあり、要点も整理されている。</li> <li>○イラストも入れられて視覚的に理解できるようになっている。</li> <li>○「解説」があり重要な語句などを詳しく説明している。</li> <li>○単元の最後に学習のまとめのページが設定され、テスト形式で学習したことの確認ができる。</li> </ul> <p>&lt;思考、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1単位時間の授業の流れ（「課題をつかむ」→「調べよう」→「考えよう」→「話し合おう」）等と明記されている。その活動を通して自分の考えを深め思考力・判断力・表現力を育成できるようになっている。毎授業同じ流れではないが、記載されているため把握できるのではないか。</li> <li>○「調べよう」で学習した内容を生かして「自分ではどうするのか」と考える学習場面が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1単位時間の課題が教科書上部に記載されているので、この時間は何について学習するのか児童にとって分かりやすい。</li> <li>○随所に書き込む枠があり、自分の生活を振り返ったり、考えたりできる構成になっている。</li> <li>○児童のキャラクターが学習活動を促したり、課題を提起したりして主体的な学習を進めやすく工夫されている。</li> <li>○発展的な学習内容や今日的課題を「発展」「広げよう、深めよう」で扱い、学習に広がりを持たせている。</li> </ul> <p>&lt;健康・安全について理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書下部に「まめちしき」や「教科～〇年」などの表示があり、他教科や既習事項の復習もできる。</li> <li>○自分の経験を基に話し合うマークで、児童が自分の経験を振り返ったり自分の生活の中で起こり得る場面でどう対処したらよいか考えたり、児童が学習した内容を実生活に生かせるような工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生かそう、伝えよう」では、学んだことをいかしてこれからの生活や行動について考えさせ、健康な生活を送る資質や能力を育成するための工夫がなされている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童にとって親しみやすい絵を使用している。児童、養護教諭、学校医などのキャラクターを使用し、児童の理解や学習意欲を高める工夫をしている。</li> <li>○イラストは多いが小さい。また、写真が少なく実際の場面がイメージしにくい点もある。</li> <li>○バーコードを読み取ると動画が見られ理解が深まる。</li> </ul>	
表記表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章が簡潔で分かりやすい。</li> <li>○重要な語句にルビが振ってあるので間違っって語句を覚えることがない。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題が提示されているので児童が何について学習するのか分かりやすい。そのため、基礎的・基本的な学習内容が理解できる。</li> <li>○1単位時間の授業の流れ（「調べよう」→「考えよう」→「話し合おう」）等と明記されている。その活動を通して自分の考えを深め思考力・判断力・表現力を育成できる。毎授業同じ流れではないが、記載されているため把握できるのではないか。</li> </ul>	

【体育科（保健）調査資料1－5】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	みんなのほけん（3・4年） みんなの保健（5・6年）	学研
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の学習段階を明記し、児童が学習の流れをつかみやすい工夫をしている。また、各段階で具体的にその活動を示し（「つかむ」→振り返る や「考える・調べる」→資料を読み取るなど）その段階での見通しを立てやすい。</li> <li>○単元最初の「ここで学ぶこと」において課題が明確にされ、学習内容がつかみやすい。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「まとめる・深める」の段階では、児童の記述を取り入れ、自分のこととして捉えやすくしている。その際に、吹き出し等で語りかけるような内容が併設され児童の思考の流れに寄り添った内容になっている。</li> <li>○ページの欄外に関連事項や話し合いのヒントなどが記述され、主体的な学習が促される内容になっている</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各所に児童のイラストとその会話が記され、児童が自分の事として捉え、意欲化が図れる工夫である。</li> </ul> <p>&lt;健康安全についての理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「かがくの目」などの補足資料により、科学的な裏付けになるとともに視覚的に訴えることで、理解を深める工夫が見られる。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「もっと知りたい・調べたい」のページにより児童の興味関心を引き出し、調べ学習やその他のテーマについても興味を持つような工夫がある。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イラストの量が多く、内容について効果的に使われている。児童が意欲的に取り組めるような資料が多い。</li> <li>○単元毎の発展資料が見開き2ページと充実しており、発展的な内容の取り扱いがしやすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文と会話等のフォントの違いで必要な知識とその他の表現の違いがわかりやすい。</li> <li>○1ページの中に、多くのマークによって表示された様々な内容を含んでいる。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き2ページで内容を構成し、学習の流れが統一されていることで児童の理解がしやすい内容となっている。</li> <li>○「もっと知りたい・調べたい」（発展）の内容が充実しており、児童の興味関心を高め、主体的な学習に効果が高いと感じる。</li> <li>○イラストが多いので写真よりもイメージがつかみやすく、児童の課題把握がしやすい。</li> <li>○「話し合う」場面の設定により、児童同士の意見の交流の機会を持つことができる。</li> </ul>	

【外国語科（英語）調査資料 1-1】第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1>NEW HORIZON</h1> <h2>Elementary English Course</h2>	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○日本語と外国語との違いに気付き理解するために、歌やチャンツで繰り返し、楽しみながら語彙や表現に触れることができる工夫がされている。「Sounds and Letters」でアルファベットの文字や英語独特の音が学習できる。</p> <p>○基礎的な技能が身に付くように、音声から文字への流れを重視し、「Your Turn」から「Enjoy Communication」で相手とやり取りしながら、重要表現を何度も繰り返し使用しながら身に付けられるよう工夫されている。「Small Talk」では既習事項を繰り返し使用できるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○場面設定が適切である。各単元の「Enjoy Communication」では、学習した表現を使い、思いを形にして楽しみながら思考力・判断力・表現力を高められる。年間3回の「Check your steps」では、学習内容を振り返るとともに、伝える力を確かめられる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○異文化理解ができるように、各単元の終わりに「Over the Horizon」がある。内容も5大陸のバランスにも配慮がある。励ましの言葉など、相手を意識した声掛けができるような欄が多くある。各単元に「Our Goal」として目標を明記し、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元が「聞く→話す（やりとり・発表）→読む→書く」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに5領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。</p> <p>○各単元が導入は音と映像を用いており、英語の音に触れる活動から始まる。展開では、ペアワークなどで音や表現に慣れる活動があり、自然な流れで身に付くように工夫されている。</p> <p>○必要な語彙は「Word Link」に示されており、別冊の「Picture Dictionary」で簡単に調べることができ、繰り返し学べるようになっている。</p> <p>○指導者用デジタルブックでは、教科書のストーリー等の映像や、海外映像、発音の口形動画などを使用できるように工夫されている。QRコードを利用して児童も家庭で音声や映像を視聴することができる。</p>	
資 料	<p>○巻末にそれぞれの言語活動で使えるカードがあり、授業ですぐに使える。ミシン目も入っていて使いやすい。書く活動ができる「Sounds and Letters」がある。</p> <p>○よく使われる単語にはイラストもついており、それぞれが別冊の「Picture Dictionary」と同じものになっており、児童にとって分かりやすくなっている。</p>	
表記・表現	<p>○英語はUDフォントが使用されている。日本語も含め、多種のフォントが使用されていないので見やすい。</p> <p>○英文は日本語よりも大きく表記されている。文構造がわかるように、会話練習がしやすいように色分けしている。</p>	
総 括	<p>○各単元が十分に聞き、練習し、表現していく流れになっている。様々な情報が随所であり、授業展開に工夫しやすい。別冊の「Picture Dictionary」は3～6年で扱う語や表現が1冊にまとめられていて、とても使いやすい。中学校への接続も視野に入れている。</p>	

【外国語科（英語）調査資料 1－2】第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1>Junior Sunshine</h1>	9 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">開隆堂</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○新しい表現は、その単元の中で「Let's Listen」や「Let's Chant」など様々な活動で繰り返し練習し身に付けられるようにしている。文章の一部分の語句を入れ替えることで、文構造を理解し、自己表現ができるように工夫されている。            ○「Let's Play」や「Let's Try」で、基礎的な語彙や表現を繰り返し使って慣れ親しみ、段階的に無理なく身に付けられるようになっている。「読み・書き」は教科書後半に独立してまとめられている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○自然で身近な場面の中で必要な表現を自然に使うように配慮しており、児童がやり取りしたくなる活動で、英語で表現することが好きになるように工夫している。また、各単元で学習した語彙や表現を使って活動する「Project」が各学年に 2 回設定されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○単元として、異文化理解に関する内容を設定することで、外国語の背景にある文化に対する理解を深める。ペア・グループ活動等で、既習表現を用いて伝え合う活動を行うなど、対話と協働を軸にする活動を多く取り入れている。巻頭の「CAN-DO」マップでは、学習の見通しが立てられるようになっており、児童の学習意欲を喚起し、主体的に取り組めるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>            ○各単元が「聞く→話す→読む→書く」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに 5 領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。また、1 年間の学習で何ができるようになったかを 4 技能（5 領域）の観点から振り返ることができるリストが巻末に設定されている。            ○文及び文構造においては、外国語活動で慣れ親しんだ活動で単語や基本表現などの基礎を学習し、徐々に学習段階に合わせた言語活動を繰り返すことで、自然に自己表現につなげることができるつくりになっている。            ○チャッツなどの言語活動を通して、語彙などの基礎的な知識を身に付けた後、徐々に児童が自身のことを友達とやり取りすることを通して、実際のコミュニケーションで活用できる技能を無理なく身に付けられるようになっている。            ○教師用のデジタル教材では、対話の内容を示したアニメーションや、発音や意味を確認できる単語カード、ゲーム的な活動も動画や音声で活用できるように工夫されている。QRコードを利用して児童も家庭で音声や映像を視聴することができる。         </p>	
資 料	<p>           ○巻頭には、「CAN-DO」マップ、巻末に「この教科書で学んだことリスト」がある。6 年生の巻末には「中学校へつなげよう」があり、中学校の学習が意識されている。            ○人物写真が多く登場しており、歴史上の人物から児童がニュースで知っているような人など多岐にわたっている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○英語は手書きに近い欧文書体が使用されている。日本語はゴシック体が使用されている。            ○英語と日本語の大きさに差はない。         </p>	
総 括	<p>           ○意図的に繰り返しを多くし、知識・技能の定着を図っている。遊びの要素が多く盛り込まれ、児童が楽しく対話・協働する英語活動ができるように工夫されている。身近な場面設定を意識している。         </p>	

【外国語科（英語）調査資料 1－3】第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>JUNIOR TOTAL ENGLISH</h1>	<p>1 1</p> <p>学 図</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○毎時間「Let's Listen」と、「Let's Chant」を基本のセットとして行い、ターゲットセンテンスをインプットする回数を増やし、定着させようとしている。欄外の「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を理解できるように工夫されている。</p> <p>○基礎的な技能が身に付くように、音声を繰り返し聞き、インプットの活動を多くした後、音声を聞きながら英文を指で追う活動や、字を見ながらなぞったり、書き写したりするなどの活動を多く取り入れている。また、目標表現を繰り返し聞き、その状況に合うコミュニケーションに必要な表現を繰り返し声に出す活動によって会話に慣れ親しむ工夫をしている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○コミュニケーションを図るのに必要な基礎力を養うため、十分なインプットを経た上でアウトプットをする活動を段階的に設け、自らの発信が無理なく行えるように工夫している。場面設定も明確にされている。発表用シートを作って Show &amp; Tell 形式で自己表現をする「Project Time」が、各学年に 2 回設定されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各単元末の「コラム」では、英語やその背景にある文化を楽しく理解できるように工夫されている。相手や場面を意識して英語を使う活動が用意されている。単元ごとに目標表現が明示され、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。自学習ページでも主体的な学習を促している。</p> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元が「聞く・聞いて繰り返す」→「話す」→「読む・書く」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに 5 領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。各単元の目標や学習の流れが明示されている。</p> <p>○英文は文頭の位置を揃えることで、語順や語彙への気づきを促している。英語を使いながら意味や文構造を理解していく構成になっており、言語活動が中心になるように工夫されている。</p> <p>○単語をただ繰り返す練習にならないよう、「自分にあてはまるものだけ繰り返す」「その人になりきって繰り返す」活動を促すことで、実際のコミュニケーションにつながるよう配慮している。</p> <p>○指導者用デジタル教材では、音声の再生、アニメーションや動画再生、ロールプレイ機能などがある。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻末の「Word List」はイラスト付きになっており、各単元内のイラストと共通のものになっている。英語の歌も豊富である。</p> <p>○イラストを多用しているが、場合によっては実物の写真を使用し、児童の興味関心を高めている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語は英語学習入門期でも認識しやすい UD デジタル教科書体が使用されている。日本語は丸ゴシック体が使用されている。</p> <p>○英語が日本語より大きめに表記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○目標表現を繰り返しインプットする活動が多いため、「聞く」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「読む」「書く」の 5 つの技能が定着し易い工夫が成された教材となっている。文字を意識した活動が多く含まれている。</p>	



【外国語科（英語）調査資料 1－4】第 14 採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">CROWN Jr.</p>	<p style="text-align: center;">15</p> <p style="text-align: center;">三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○基本的な知識を身につけるために、大単元の「Step」では、「Listen &amp; Talk」「Word Chant」「Enjoy Listening」の活動の中で、既出表現に何度も振れ、豊富なインプットと少しのアウトプットが繰り返されることで習熟を図るようにしている。各学年において、全単元でアルファベットの文字と音を理解できるように工夫されている。</p> <p>○学習した基本的な語彙や表現を使ってやり取りを行う「Listen &amp; Talk」や「Talk to Friends」で繰り返し表現を使うことで、技能を身に付けられる。Lesson の終わりには「書くこと」を含むまとめの活動があり、文字についても無理なく学べるようになっていく。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○年間3回設定されている大単元の「Step」では、目的や場面を意識し、自分で話す内容や構成を考え、ときには調べたりしながら表現していく活動の積み重ねで、確かなコミュニケーション力がつけられる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○世界に目を向けられるような題材を扱っており、異文化に対し理解が深められるようになっている。ペアワークやグループワークが多く配置され、対話的な学びがおこりやすいよう配慮されている。また、誰に何を伝えるのかを意識させる相手意識が持てるよう工夫されている。「HOP」「STEP」「JUMP」で学ぶプロセスを「見える化」している。</p> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元が「聞く→話す(やり取り)→読む→書く→話す(発表)」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに5領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。それぞれのマークも見ただけで意味が分かりやすい。</p> <p>○文及び文構造については、必要なものが網羅され、それらが繰り返し提示されることで、理解や習熟を促している。児童の気付きにつながりやすい箇所に、そのヒントを活動や脚注に入れている。</p> <p>○必要な語彙を言語活動と関連付け、児童の言語活動に必要な観点から、表現のための語彙、理解のための語彙が適切に選択されて成り立っている。</p> <p>○指導者用デジタル教材では、授業展開例と連携した「授業プラン」モード（パワーポイントのように画面を送っていく方法）で授業が進められるようになっている。QRコードから得られる音声や映像が充実している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻末には「CAN・DO」リストや他国の文化に触れられる読み物がある。単語リストはイラストとQRコードが付いていて使いやすい。</p> <p>○挿絵、写真等の資料においては、場面設定が明確になるような挿絵が適切に配置されている。また、随所に活動の内容が挿絵で示され、児童の活動理解の助けになっている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○主に使用している書体は Cj Gothic と NC Gothic で、書き写す際の書体は手書き文字に似せた形を採用している。日本語はゴシック体が使用されている。</p> <p>○全体的に日本語、英語とも文字は大きめで、行間も広い。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「HOP」「STEP」「JUMP」の三つの大単元で構成されており、基本表現等を何度も繰り返しながら、スモールステップで学習していく。物語やショートストーリーが多用されている。</p>	

【外国語科（英語）調査資料 1－5】第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1>ONE WORLD Smiles</h1>	1 7 教 出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○新しい表現は、その単元の中で「Let's Listen」や「Let's Say It Together」など様々な活動で繰り返し練習し身に付けられるようにしている。文章の一部の空欄に語句を入れることで、文構造を理解し、自分の思いを伝えることができるように工夫されている。</p> <p>「Sounds and Letters」では、文字の音声、基本的な強勢、イントネーションの違いに気づき、学べるように工夫されている。</p> <p>○「Activity」では、学習した語彙等を使い、基本的なやり取りをペアやグループで取り組む。「Read and Write」で書くことにも慣れることができる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○日常生活に直結する場面がバランス良く設定されている。「Let's Think」では、気づきや思考を促す問いが設定されている。また、「Final Activity」では、これまで学習した語句や表現を使い、自分のことについて表現する活動が設定されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「Let's Look at the World」では、異文化理解を手助けする内容が構成されており、写真や文字で世界の様子を知ることができる。各単元にペアやグループで行われる活動が設定されており、他者へ配慮したコミュニケーション活動が行われるように工夫されている。目標表現が明確で、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元が「聞く→話す(やり取り)→読む→書く→話す(発表)」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに 5 領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。</p> <p>○文及び文構造においては、日本語と英語の語順の違い等の気づきを促せるように繰り返しの活動を取り入れ、新たに扱う文構造については「意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用する」機会が多く設けられている。</p> <p>○必要な語彙を言語活動と関連付けコミュニケーションに生かせるようにするため、関わり合いの中で自尊感情を高め、対話的で深い学びを実現できるように配慮している。</p> <p>○指導者用デジタル教材では、動画、フラッシュカード再生機能などが学習場面に応じて使用できるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○巻末にそれぞれの言語活動で使えるカードがあり、授業ですぐに使える。ミシン目も入っていて使いやすい。ワークシートやシール等児童の興味を引くものがある。</p> <p>○挿絵、写真等の資料は、児童の学習意欲を高めるもの、音声や英文内容の理解を助けるものや、作品世界を生かし、児童の想像力を高めるイメージ豊かなものを掲載している。また、学習活動の様子をわかりやすく示したもの等のほか、学習上必要なものを適所に取り上げている。</p>	
表記・表現	<p>○英語は、書く時のアルファベットに近い形状の書体が使用されている。日本語の書体も、特別支援教育の観点で読みやすいユニバーサルデザイン・フォントが使用されている。</p> <p>○日本語と英語の文字の大きさに差はない。</p>	
総 括	<p>○5 領域がバランスよく配分されている。資料も工夫が凝らされ、児童の意欲を高めることができる。6 年生の最後の単元では、2 年間で学んできたことの総復習として自分のことを書き、小冊子「My Book」にまとめる活動が設定されている。</p>	

【外国語科（英語）調査資料 1－6】第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">Here We Go!</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p>           &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○「Step」では、基本的表現を音声と映像から聞いて知る活動と、語彙等を声に出すチャンツの活動がある。「Response」のコーナーでは、相づちや誉め言葉を紹介している。欄外でアルファベットの文字と音やイントネーションなどが理解できるよう工夫されている。            ○基礎的な技能が身に付くように、各単元の「Step」のページで、ストーリーの中のターゲットとなる表現に気付くことから始まり、聞く活動→チャンツによる口慣らし→簡単な練習→コミュニケーション活動→書く活動と、スモールステップを踏んだ活動が組まれている。         </p> <p>           &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○言語活動には、予想を書き入れるところが多く設けられ、様々な活動を通して楽しみながら英語表現に慣れるよう工夫されている。Unit のゴール活動である「You can do it!」では、「Step」で学んだ語句や表現を活用して、お互いの考えや気持ちを伝え合い、思考・判断・表現力を養えるよう工夫されている。         </p> <p>           &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○世界の小学生や世界で活躍する日本人の映像を見て、多様な価値観に触れられるようにしている。異文化理解に繋がるコラムやクイズも掲載しており、児童が世界に興味を持って楽しく学べるように工夫している。相手のことを考えながら力を合わせて取り組む協働学習を取り入れ、その中で Response の大切さを示唆している。各単元の最初にゴールが明示されている。         </p> <p>           &lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;            ○各単元が「聞く→話す(やり取り)→読む→書く→話す(発表)」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに 5 領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。            ○文は、平易なものから段階を踏んで、難度が高くなるように配列されている。生物の食物連鎖の題材を活用して、文構造を捉えられるよう工夫されている。            ○必要な語彙、重要な語彙については聞く活動も含めて何度も触れるようにしている。そのため着実な定着を図ることができる。            ○指導者用デジタル教材では、ピクチャーカード、歌、「Small Talk」がある。各単元にアニメーションが配置されており、QR コードで英語の音声を確認できるように工夫されている。         </p>	
資 料	<p>           ○巻末のカードやシールが豊富である。水性ペンで何度も練習できるペンマンシップカードがある。領域ごとに分けられた CAN-DO リストが巻頭にある。            ○挿絵、写真等の資料は、児童が内容を推測しやすいよう、写真やイラストがふんだんに使われており、学習に効果的に使用できるように配慮されている。         </p>	
表記・ 表現	<p>           ○英語は独自に開発された書体が使用されており、児童がそのまま書き写せる。日本語はユニバーサルデザイン書体（丸ゴシック体）を使用している。            ○日本語と英語の文字の大きさに差はない。英文は一文ごとに改行し、文頭を揃えるようにしてある。         </p>	
総 括	<p>           ○単元全体は、見開きごとに統一し、授業の流れを順に整理して配置している。聞く活動から徐々に話す・書く活動へと進めるよう、各コーナーとも整理されているので見やすく学びやすい。協働する活動が多く取り入れられている。         </p>	

【外国語科（英語）調査資料 1－7】第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>Blue Sky elementary</p>	<p>6 1</p> <p>啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○「Listen and Play」で基本的な表現を知り、「Jingle」、「Chant」で語彙、表現、文章を繰り返し聞いたり声に出して言ったりして習得できるようにしている。文章の一部の語句を入れ替えることで、文構造を理解するとともに、自分の思いを伝えられるように工夫されている。</p> <p>○「Listen and Do」や「Listen and Say」で、基本的な語彙や表現を繰り返し聞いたり言ったりして身に付けられるようにしている。「Activity」では、学んだ基本的な表現を使ってやり取りや発表を行い、自分の思いを伝える活動が設定されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○コミュニケーションを図るのに必要な基礎力を養うため、「Listen and Guess」などの演習では、即興的なやりとりができる素材を多く提供しており、新出語句や表現の意味、使い方を場面や状況をもとに推測する力を養う工夫をしている。「REVIEW」の“思”では既習の表現を、場面や状況を変えて使用できるかを問い、思考力・判断力を養う工夫をしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「Did you know?」のコーナーでは、異文化知識を深められるようになっている。異文化や他教科に関する内容を扱うことで、児童の興味・関心を刺激し、主体的な学びへと導けるようにしている。他者を意識して発言内容を考えさせる活動を通して、思いやりの心を育み、平和で円滑なコミュニケーション能力を伸ばす工夫をしている。ふりかえりが簡単にできるように工夫されている。</p> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元が「聞く→話す(やり取り)→話す(発表)→読む・書く」の流れで構成されている。それぞれの活動の見出しに5領域のマークがついており、何の学習なのか児童にもわかりやすい。</p> <p>○各所に文字に触れる場面を設定し、段階的に文字を読んだり、書いたりする機会を増やすことで英文に慣れるようにしている。文を書くことを通じて、語順や文構造の気付きにつながるよう工夫されている。</p> <p>○「Listen and Play」や「Chant」などで、基本的な語彙は示しており、その後の「Listen and Say」や「Listen and Do」で何度も繰り返し活用しながら身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Jingle」や巻末の「Word List」では、QRコードで音声を聞いたり、「Let's Read and Write」でアルファベットの読み書きを学んだりできる動画が設定されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻末のカードが豊富でミシン目入りで使いやすい。「Word List」もイラスト入りで見やすい。「Can-Do List」も領域別になっている。</p> <p>○イラストや写真を使って効果的に学習できるように配慮している。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語も日本語も UD デジタル教科書体が使用されているが、各単元の題字や書く活動の見出しはデザイン文字が使用されている。</p> <p>○日本語と英語の文字の大きさに差はない。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○シンプルで見やすい構成になっている。英語を書く機会が各単元ごとにあり、書くスペースが広く取られているため、児童にとっては作業しやすいものとなっている。モジュールマークがあり短時間学習がしやすい。</p>	

書名 項目	新訂 新しい道徳	2 【東書】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材タイトル部分の「学習のテーマ」により、何を学習するのかが分かり、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。教材の終わりに、「学習の振り返り」を設け、児童が自ら成長を実感できるように工夫している。読み物教材を通して考えた道徳的価値を、より深めるための学習活動ページを効果的に配置している。</li> <li>○ 巻頭で、道徳の授業の進め方や学習活動を紹介し、授業のイメージや学習意欲が膨らむようにしている。巻末には自分の成長をみつめるための振り返りのページを設けている。問題解決へ向けた話し合いを促す「考えるステップ」などを設け、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしている。</li> <li>○ 人生や生活に生きて働く道徳性を育成するため体験活動との関連を図っている。巻末付録を活用し、各教科等と関連した効果的な道徳教育の指導ができる。学期、1年間と書き込み欄を掲載し、記録を積み重ねることで評価にも生かせるようになっている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 喫緊の課題である「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。とびらページと複数教材とを組み合わせるユニット形式で、多面的・多角的に「いじめ問題」と向き合えるようになっている。各学年に情報モラルを扱った教材を配置し、発達段階に応じて、段階的に指導できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年を通して「節度、節制」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」「自然愛護」を重要指導内容として設定し、繰り返し学習することで、発達段階に応じて段階的に理解を深めることができるようにしている。</li> <li>○ 1年生は小学校入学前後の生活を紹介し、幼児教育との関連を図り、高学年では中学生になるに当たって、自己の生き方を考える教材を掲載している。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考える道徳への学習手順である、1「気づく」2「考える。話し合う」3「振り返る。見つめる」「生かす」を示している。</li> <li>○ 道徳科における重要な学習活動である話し合いができるための「話し合いの約束」問題解決的な学習を導く「問題を見つけて考える」を示している。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アニメキャラクターを題材にするなど、子供たちの心を揺さぶる感動的な教材や身近な話題で共感と呼ぶ教材を掲載している。</li> <li>○ 学習への興味や問題解決の意欲を持てるよう、美しい挿絵や写真を掲載している。レイアウトを工夫し、余白を適度に確保したゆとりのある紙面構成である。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AB版、192ページ(6年生)、行表示あり</li> <li>○ 教材は、1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナにルビ、漢字は当該学年の前学年までの配当漢字を使用している。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「主体的に考え、自分の生き方を追求」「いじめをしない、許さない心の育成」「人間関係を築く力を養う」の3つの視点を重視している。学習活動ページでの発言内容や学習の振り返りの記述内容から児童の成長を見取ることができる。それを手がかりとして評価することができる。</li> </ul>	

書名 項目	かがやけみらい 小学校道徳 きづき かかやけみらい 小学校道徳 なまび	11 【学図】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材文の世界を味わう「きづき」と、書き込みや体験的学習を促す「まなび」の二部で構成されている。「きづき」の冒頭の「主題」でねらいを確かめ、「まなび」の「発問」で考えを深め、道徳的価値に迫るとともに実践につなげている。学習の最後にある「特設コーナー」で、自らの変容や学びの深まりを実感できる発問が用意されている。</li> <li>○ 巻頭の振り返りのページで、心の成長を見取ることができる。また、学校・家庭生活の日常場面、地域の人々との関わり等を多数取り入れ、児童が現在の生活を見つめ、これからの生活を考えることができるようにしている。</li> <li>○ 内容項目ごとに、「特設ページ」を掲載し、自らのこれからの在り方を見つめる場面を設定している。また、分冊「まなび」を持ち帰ることで、学校での学習を家庭や地域と共有することができる。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な道徳的価値で、「いじめ」に向き合う教材を用意している。活動コラムでも、いじめにつながる問題に正対して考える。「生命の尊さ」については全学年を通して扱う。</li> <li>○ 「情報モラルの問題」では、具体的な生活の場面に即し、これからの情報社会で必要となる情報問題を全学年で扱っている。</li> </ul> <p>〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生命の尊さ」を全学年の重点項目に位置づけ、1年間で複数回の学習を行うことを通して、重点項目をより深く学べるよう工夫している。</li> <li>○ 発達段階に合わせ、全学年で情報モラルに関する様々な生活場面を取り上げている。情報機器を通じたコミュニケーションの特性や扱いだけでなく、情報の受け手として、発信者としての心構えを養う。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分だったらどうするか」などの問いかけをもち、自分たちのこととして、課題を発見し、主体的に解決するような発問を用意してある。</li> <li>○ 「まなび」の発問に、「考えよう」「見つめよう」などのマークをつけ、主体的・協働的な学習を積極的に取り入れている。動作化、役割演技などの体験的な学びを通して多様な考えを実感できるようにしている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事、全国的な啓発活動との関連に配慮して教材を配列している。スポーツやオリンピック・パラリンピックに関する教材も掲載している。</li> <li>○ 多様なイラスト写真を配置しており、親しみやすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AB版 150ページ(きづき) + 52ページ(まなび)</li> <li>○ 学年配当漢字には全てルビをつける。配当外漢字については、その都度ルビをつけ、児童の読みの負担を軽減している。</li> <li>○ 教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類している。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「よりよい生き方」を考えるため、教材文を集めた「きづき」と、発問や活動を集めた「まなび」の二分冊になっている。「まなび」は、書き込んだり、ワークシートを貼ったりすることで、学びの深まりを実感できるポートフォリオになる。児童、担任、保護者が一体となって道徳を行っていくという方針が裏表紙の「保護者の方へ この教科書でめざすこと」に書かれている。</li> </ul>	

書名 項目	小学校道徳 はばたこう明日へ		17 【教出】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材毎に導入（主題への誘い）を設けている。教材を読む前に、どのような価値について学習するのか、何が問題になっているのかなどを把握できる。授業の流れを想定した「学びの手引き」により、教材本文につながる問いから、道徳的価値そのものへの問い、今後の行動への示唆など、価値理解を深めることができる。これらの発問の項目を取捨選択することで、教材観に合わせた授業が展開できる。</li> <li>○ 1年間の道徳授業の最初に目標を立てることで、現在の自己を知ることができる。巻末には振り返りのページを設け、1年間の道徳の学習で一番心に残ったことを記入することで、心の成長を見取ることができる。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多面的・多角的に考える教材として、「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」の3点に特に重きを置いている。現代社会の様々な課題に向き合えるよう、「食育」「防災教育」「福祉教育」などにも対応している。</li> <li>○ オリンピック、パラリンピックを始めとするスポーツに関わる題材を積極的に取り入れ、内容項目とからめ東京オリンピックに向けた児童の関心の高まりに応じている。</li> </ul> <p>〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年のはじめは自分自身に関する教材を多く配置し、児童の発達段階を考慮した配列になっている。また、学校行事と関連させている。教材タイプにも工夫があり、低学年は物語教材、中学年は生活に関する教材、高学年は人物の生き方に関する教材と発達段階に合った教材を選定している。</li> <li>○ ユニットを設定し、「生命の尊さ」に重点を置き、低学年は命の大切さや自己の誕生から成長、中学年は一生懸命生きることの素晴らしさや命が多くの人に支えられていること、高学年は生命の尊厳や命の繋がり、かけがえのなさを取り上げている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やってみよう」では、課題解決に向けたロールプレイや考察を取り入れ、道徳的価値の理解を深めることができる。道徳的価値を実体験することを通して理解し、行動化を図るモラルスキルトレーニングを全学年配置している。児童の予想される回答なども記載してあるので話し合いの手がかりとなる。</li> </ul>		
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実在した（する）人物、各分野で活躍した（している）人物を多く取り上げ、児童が興味をもって読めるように、功績や活動実績だけでなく苦勞したところや心の葛藤なども紹介している。</li> <li>○ 30本の本教材と5本（1年生は4本）の補充資料で構成している。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AB版152ページ（6年生）行表示あり。ユニバーサルデザインに配慮した書体に ○ なっている。</li> <li>○ 1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナ、漢字は教材ごとに初出にルビをつけている。難解な言葉などについては、脚注で解説している。</li> <li>○ 教材ごとに学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。教材の配列は4つの視点と内容項目ごとに分類している。</li> </ul>		
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材は、内容項目ごとにまとめてあり、内容項目との関連が明確になっているので、教師も児童も教材の主題を把握しやすく、学びが深まる。様々な考えをもった児童の立場を考慮して、多面的・多角的に考えることができる構成となっている。</li> <li>○ 埼玉県にまつわる人物や地域を積極的に教材に取り入れている。</li> </ul>		

書名 項目	道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 【光村】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材文の冒頭で道徳的価値に繋がる問いかけを示し、児童が無理なく学習に入ることができるようにしている。「考えよう・話し合う」では、児童が教材を通して、何を学ぶのかをはっきりと意識することができるよう、めあてを示すとともに、教材の内容についての問い、道徳的価値に迫るための中心発問、価値の一般化を図る問いの3つの発問を提示している。</li> <li>○冒頭の「道徳の時間」には主体的に考え、話し合う道徳の授業の学び方、道徳で学んだことが他教科や日々の生活と結びつくことが示されている。物事を多面的・多角的に考えることができるよう、年間5か所、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を設けている。</li> <li>○1年を3つのまとまりに分け、区切り目に「学びの記録」を設け、自分の学びの変化や成長を振り返ることができるため、児童の自己評価を通して児童の成長を見取ることができる。各教材の「つなげよう」では、児童のやってみたくなる気持ちを引き出すとともに、学んだことが日常生活の行動に繋がられるようにしている。</li> <li>〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</li> <li>○道徳の学習全体を通して、「いのち」の大切さが意識できるようにしている。「生命の尊さ」を扱った教材を全学年に3つずつ掲載している。</li> <li>○「情報モラル」「いじめ問題」「環境」「国際理解」「福祉・共生」については、教材とコラムで一つのまとまりをもつユニット構成にし、子供たちが現代的な課題にふれ、物事を多面的・多角的に考えることができるように配慮している。</li> <li>〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</li> <li>○3年生以上に複数の道徳的価値が含まれた内容の「なんだろう なんだろう」(ヨシタケンノスケ作・絵)を設け、「考えること」を楽しむことができるようにしている。</li> <li>○「夏(冬)休みに調べてみよう」というコーナーを配し、道徳で学んだことが長期休みの間に自主的な学びや家庭での話し合いに繋がられるよう話題を提示している。</li> <li>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</li> <li>○学んだことや自分の心の変化を自由に書き止め、振り返ることができる「学びの記録」があり、自分の学びの変化や成長に気付くことができる。</li> <li>○児童が切実さをもって道徳的価値の意義などについて考えが深められるよう、随所に「～になったつもりで、話してみよう」「演じてみよう」などの学習活動がある。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚的に子供の興味を引く漫画形式の教材、見開きの一枚絵やデータから考える教材など、児童が教材に引き込まれ、考えずにはいられない教材がある。</li> <li>○児童の感性に訴える美しい描き下ろしの絵や迫力ある写真が掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5変形判220ページ、行表示あり。</li> <li>○該当学年の配当漢字には全て振り仮名がついている。正しく読めるように熟語の混ぜ書きを極力避け、その分該当学年より上の配当漢字には振り仮名がついている。</li> <li>○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。巻末に現代的な課題、他教科・領域との関連などが網羅できる一覧を掲載している。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最も大切にすべきものとして「命」を位置づけている。各教材の「つなげよう」というコーナーでは、道徳で学んだことを次の行動に繋がられるヒントの提示があり、実際の活動のヒントとなるページがある。他教科との繋がりが学習したことを実生活につなげる工夫があり、また家庭・地域との連携を意識した資料が見られる。ユニバーサルデザインを考慮した色彩と文字により、児童が内容を理解しやすい教材が多い。</li> </ul>	



【特別の教科 道徳 調査資料 1-5】 第14採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 【日文】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材と「道徳ノート」の2冊で構成されている。児童の学びと教師の指導の参考例として「学習の手引き」を設けている。主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を実現するため、体験的な学習や問題解決的な学習の手法を例示している。</li> <li>○ 「道徳ノート」は、書く活動を通して、自分の考えをさらに広げたり、友達の考えを記入したりすることで、多面的・多角的な見方や考え方ができるような構成になっている。</li> <li>○ 各教材には、末尾に「考えてみよう」と「見つめよう生かそう」を配置し、発問例が設けられている。「見つめよう生かそう」は、授業で学んだことを「これからの児童自身に生かしていく」ための発問例である。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いじめ防止」を最も重要なテーマとして位置付けられている。多面的・多角的な視点から考えられるよう複数の教材が用意され、複数配置されている。特に、いじめ防止ユニットは「人との関わり」として各学年3回配置されている。</li> <li>○ 「安全の確保（防災・防犯・交通安全）」「情報モラル」「社会の持続可能な発展」などを配置している。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年の教科書は、「スタートカリキュラム」を意識した内容で、「保・幼・小」の連携に配慮している。5・6年の教科書は、中学校段階との接続を視野にしている。</li> <li>○ 各教材の「考えてみよう」では、その教材のねらいに到達するための発問例が掲載されていて、ねらいとする道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てようとしている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「①気づく」→「②考える・深める」→「③見つめる・生かす」と示され、特に「②考える・深める」では、話し合い活動が具体的に写真で提示されていて、「考える道徳」「議論する道徳」が視覚的にとらえられるように工夫されている。</li> <li>○ 「心のベンチ」では、教材と関連した内容や活動を取り上げ、道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えられるようにしている。道徳科以外の教育活動とも関連づけて活用することができる。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材文の前に、あらすじ・登場人物を提示し、教材の内容把握を助けている。</li> <li>○ 見開きの大きな写真や絵、マンガ形式の挿絵が掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AB版190+42 ページ該当学年以上の配当漢字にはすべてに振り仮名をつけている。</li> <li>○ 教材ごとに、4つの視点を色分けしている。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類され、テーマや他教科との関連、学習の手引きが示されている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「道徳ノート」により、児童の道徳性の成長の様子や学習状況を継続的に把握でき、指導や評価の参考になる。</li> <li>○ 児童用の教科書だけでも学習の流れがよく分かるものとなっている。</li> </ul>	

書名 項目	<p>小学道徳 ゆたかな心</p>	<p>208 【光文】</p>
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教材には、冒頭に「導入」、末尾に「まとめる（終末）」「ひろげる（発展）」を設置し、1時間の授業の目的や流れを捉えることができる。</li> <li>○ 終末では「まとめる」として、その時間に学習した内容をふり返るポイントを提示し、「考えたこと」「分かったこと」「学んだこと」を確認することができる。</li> <li>○ 展開で「道徳の時間」で学んだことを他教科や学校での活動、家庭生活、地域社会などへとつながりを持たせ、広げていくためのポイントを提示している。 〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</li> <li>○ 情報モラルについては、特に配慮が必要な項目と捉え、全学年とも本編の教材の他にコラムとしても取り上げている。</li> <li>○ いじめを生まない心を育むため、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題として捉えることができるような教材を選定している。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</li> <li>○ 「生命の尊重」を重点主題として複数時間で構成していて、同じテーマを異なる視点から考えたり、同じ視点で学びを深めたりすることができる。</li> <li>○ 教材の内容を理解し、考える時間を十分確保できるように発達段階を踏まえて学年ごとに教材の文章量を配慮されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</li> <li>○ 「学びの足あと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力をはぐくみ、学習を継続的に深めることができるようにしている。</li> <li>○ 各教材の下部にさまざまな「問いかけ」を掲載し、多様な感じ方や考え方を実感できるようにし、児童の多面的・多角的な思考を促すような工夫がある。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ A4変型版と大判化した版型を使用し、スペースが大きく見やすい紙面である。</li> <li>○ 長く親しまれている定番教材だけでなく、多様な人物に学ぶ教材、親しみやすい漫画やアニメなどの教材がある。登場人物の紹介があり、児童の読みの理解を手助けしている。</li> <li>○ 各学年35点（第1学年34点）に加え、付録教材5点（第1学年6点）があり、多様な指導に合わせることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢字は、前学年までに習った漢字の使用を基本とし、文節で改行を行うなど、読みやすさに配慮している。</li> <li>○ 教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。目次は4つの視点で色分けされている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1時間の授業の目的や流れを明確にし、児童一人一人が意識を高めた中で、学習に取り組むことができる構成である。学習のまとめとして、具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を提示してある。</li> </ul>	

書名 項目	新・みんなの道徳	224 【学研】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視しており、あえて主題名を本文中に記載せず、児童の問題意識を大切に構成・展開になっている。教材の末尾に「考えよう」を設け、考えを深め、自分を見つめ直すきっかけとなるよう投げかけている。</li> <li>○巻頭に現在の自分を見つめるページ、巻末に1年の学びを振り返り、自分の成長を感じ取ることができるページがあり、これからの自己の生き方への考えを深めることができる。</li> <li>○「深めよう」「やってみよう」「つなげよう」「ひろげよう」の4種類の学びの特設ページを設けている。自ら考え、友達と意見を交わし、考えを深め、自己の考えを広げる、多様な学びを可能にしている。</li> <li>○〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</li> <li>○「いのちの教育」を全学年の重点として、全ての学年で教材を3点配置している。複数教材を連携させた学習も可能となっている。いじめ防止につながる教材も複数配置している。</li> <li>○「情報モラル教育」について、情報や情報機器を扱う際に気をつけるべきことを扱った教材や更に考えを深めるための特設ページが設けられている。</li> <li>○〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</li> <li>○自立した一人の人間として、人生を他者と共によりよく生きることを「いのちの教育」とし、低学年はしっかり生きる、中学生は仲よく生きる、高学年はよりよく生きるを2学年ごとの重点テーマとして設定している。</li> <li>○幼児期の成長の過程や中学校への成長の見通しを踏まえ、内容の特性や重要度、複数時間扱いなどを考慮した構成・配列になっている。家庭や地域との連携を図りながら、道徳的価値の視点を重視した教材を積極的に取り入れている。</li> <li>○〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</li> <li>○アクティブ・ラーニングの視点から、学びのページ「深めよう」において、問題解決的な学習や「やってみよう」で、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れている。道徳的価値について多面的・多角的に考えられるように、異なる複数の意見を教材に提示し、多様な学習指導過程の創造を可能にしている。</li> <li>○児童が主体的に取り組めるよう、書き込み欄が適所に配置されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が学びたい気持を大切に、「考える意欲」を生む新しい教材や長く活用された確かな教材、日本の各地域に関連した教材や今を生きる人から先人を扱った教材などの多様な教材が設けられている。</li> <li>○子供たちが集中して教材に向かえるように見開きで始まっている。挿絵や資料が大きくゆったり掲載されており、中心発問で使用したい場面の絵が多数掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A4版、ページ数170ページ</li> <li>○本文の記述はできるだけ平易に、理解しやすく表現している。漢字は、当該学年以降に配当されているすべての漢字に振り仮名が付けられている。</li> <li>○内容項目の4つの視点ごとに色分けされ、一目で取り組み方がわかるマークが使用されている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の日常生活と密接に関連した教材や今日的な課題を積極的に取り上げている。自ら考え、友達と意見を交わし、考えを深め、広げるために、4種類の学び方のページを設け、多様な学びを可能にしている、問題解決的な学習に適している。</li> </ul>	

書名 項目	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート	232【廣あかつき】
内容	<p>〈道徳科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本冊と別冊の分冊構成である。学習の手がかりとなる「考えよう、話し合おう」を配置し、児童の主体的な思考、積極的な話し合いを促す構成になっている。「道徳ノート」は、内容項目別に構成されている。道徳的価値についての解説があり、児童は学ぶべき道徳的諸価値を理解することができる。</li> <li>○ 巻頭に道徳の授業の学び方を紹介するページと詩が掲載され、児童が問題意識をもって取り組めるように示している。「道徳ノート」では、内容項目ごとに、その道徳的諸価値に準じた問いを掲示しており、この問いと向き合うことで、児童は道徳的価値についての理解をもとに自分を見つけ、自己の生き方についての考えをより深めることができる。</li> <li>○ 「道徳ノート」への記入内容は、その全てが児童の「心の記録」となり読み返すことで自分の考えの変化や深まりに気づき、自らの成長を実感できるようになっている。</li> <li>○ 〈現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫〉</li> <li>○ 重点項目（生命の尊さ）には、各学年最大時間数（年間3時間）を配当している。</li> <li>○ 巻末に、現代的な課題にかかわる「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」について考えるページを特設し、折に触れて各教材と併用することができる。</li> <li>○ 〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</li> <li>○ 低学年では、教材をもとに考える問いや自己に照らして考える問い（各教材につき2問）を掲載。中・高学年では、それらの問いに加えて学習のめあてを示すことで、児童が大まかな学習の道筋を把握することができる。</li> <li>○ 低・中学年では、「安全教育・防災教育」との関連を図り、「命を守る」ページを高学年では生命を多面的・多角的に捉え、「生命の尊さ」について思考を深めるページを設けている。</li> <li>○ 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</li> <li>○ 児童が学習の見通しをもって、自ら課題意識や問題追及への意欲を高め、主体的に学習に取り組めるよう、学びの手がかりとなる「考えよう 話し合おう」を設け、指導の主体的な思考、積極的な話し合いを促す構成である。</li> <li>○ 「道徳ノート」の巻末の「こころのしおり」を利用して、自己評価できることで、自らを振り返って成長を実感し、課題や目標を見いだすことができる。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長く読み継がれてきた名作や大人も胸にしみる物語、先人の伝記や様々なジャンルで活躍する著名人、スポーツ選手等を扱った教材が多数掲載されている。</li> <li>○ 役割演技、動作化など、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的価値についてより深く考えることができる。教材を体験的な学習を促す教材として積極的に掲載している。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ A B版170ページ（教材）+56ページ（道徳ノート）</li> <li>○ 教材は児童の読み取りに差異が生じないように、未習の漢字は振り仮名が付けられている。</li> <li>○ 教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は4つの視点で分類されている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本冊と別冊の2冊の相乗効果で、児童の道徳的な判断力、道徳的な信条、道徳的な実践と態度を養い、「生きる力」を育むことができる。「道徳ノート」は内容項目別になっており評価がしやすい。現代的課題に関わる「生命尊重」「共に生きる社会」「情報モラル」について考えるページが特別に設けられている。</li> </ul>	